2—863

顧問　大隈重信　會長　島田三郎
同　森村市左衛門　副會長　安部磯雄

廓清

（明治四十四年九月十日第三種郵便物認可　大正三年十二月十五日發行）
（毎月一回十五日發行）

第四巻第拾貳號

■青島陷落、青樓建設……益富政助
□英國婦人と日本婦人……植原悦二郎
□獨逸婦人の活動……三田谷啓
■娼妓を救はんとした懺悔……T　M生
□天の啓示に從へ……本多貞子
□純潔の雙美……油谷治郎七
■娼妓の百人研究……山室軍平
□果して熱し易く冷め易き乎……水津千雲
■鰻釜町民會の奮起……鈴木榮之進
□秋季大運動の記……江南
■自由廢業案内號の盛況……江南
□熱血紅淚……會員の聲
□花の日會の社會的影響……鳩山春子
■公娼制度の缺陷（英文）……シールド
△麻布青年會△鰻釜町民會△矯風會の慈愛館△女中夜學校△結婚媒介所

東京　日本廓清會本部　發行

救世軍大佐 山室軍平先生著

社會廓清論

定價壹圓（郵稅八錢）

日本を世界の青樓國たる汚辱より救はんものは、公娼廢止の一擧にあり。公娼は男子不品行の公許にして、又婦人貞操切賣の公認なり。檢黴は衛生學上の欺瞞にして、娼妓は梅毒の傳播機關なり。人身賣買を營業視する日本人の實業道德は皆無のみ。娼妓は昔ながらの奴隷なり。貸座敷營業者は奴隷賣買業なり。奴隷公許か、公娼全廢か。二者其一を擇はざる可らずとは、著者が從來の主張なり。本書は廓清會の同人と共に取調べたる內外遊廓制度の研究を經とし、救世軍にて救濟したる數百の不幸なる女性の實歷を緯とし、公娼廢止が刻下の急務たるを論じて、其善後策に及び、併せて藝妓海外醜業婦の處置を説く。是れ實に、壓へられたる弱者の解放を迫る人道の叫聲にして、腐敗したる社會の廓清を促がす一大烽火なり。

山室軍平氏著

＝公娼全廢論＝

定價拾錢 郵稅貳錢

發兌 東京尾張町 警醒社書店 振替東京五五三番

THE PURITY
廓清

第四巻第十二號　（十二月）

靑島陷落、靑樓建設

さしも獨逸が多年東洋の根據地として賴み來つた靑島も陷落して愈十二月一日より一般人民の入市を許さるゝ迄に至つたことは國民として大に祝せざるを得ぬところである。夫れと共に思ひ出すのは日露戰爭後に於ける滿洲の狀態である。平和克復後、潮の如く滿洲に侵入した日本人は如何なる人物であつたか、其多數は博徒ゴロツキの輩で且つ婦人の殆んど凡ては醜業婦であつた。殊に後者の跋扈は甚しく至る處の開放地は瞬く間に彼等を以て滿されたのである、當時此醜態を見た吾等は實に國民として一大恥辱たるを感ぜずには居られなかつた。況して土着支那人迄が日本婦人を見れば、悉く醜業婦視し、聞くも淺ましき卑猥の言を放ちて憚らず、戰勝者たる日本人は尊敬さるゝは愚か、却つて土人より輕蔑嘲笑せらるゝの事實を見ては實に憤慨に堪へなかつたのである。そこで吾人は微力を顧みず滿洲婦人救濟會を起して是等の婦人の救濟を計ると共に滿洲風紀の改善に努力したのであつた。然るに今回靑島の開城と共に眞先に侵入したものは又々醜業婦と女郎屋だと聞いて如何にも情なく感ぜざるを得ぬ、光榮ある我軍に依て靑島は陷落した、併し靑樓は陷落されない否な却て靑樓は新たに建てられつゝあるのである。吾人は我賢明なる當局者が此事實に注目し靑島に於ける我日本人間の風紀に注意し少くとも獨逸占領の當時と比較して劣らざる迄に風紀の取締を嚴にせんことを望んで止まざる次第である。（益富政助）

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

娼妓の百人研究（三）

救世軍大佐
廓清會評議員　山室軍平

二〇　勤める程増す前借金

娼妓の前借金に不思議なことは、彼等が娼妓を勤めることによつて、前借金が減るのではなくて、却つて増す方が多いといふことである。もとより其精算勘定が何うなつて居るかといふ様なことを知つて居る娼妓など殆んど一人もない。大概皆貸座敷營業者が娼妓の印形迄保存し居りて、其時々に勝手な帳面を作つて捺印するのに委せてある。私共が取調べた百人の娼妓の中、自分の前借金の増減を自分で辨へて居る者は唯二十六人に過ぎなかつた。然らば彼等が娼妓になつた當座に比べて其後前借金の増減は如何やうになつて居るかといふに。

前借の増したるもの　一八
前借の減じたるもの　八

即ち増した者七に對する減つたもの三の割合である。増したる中には

前借金二百六十圓にて娼妓となり、五年三ヶ月勤めて、三百二十圓に増したるもの。

前借金二百八十圓にて身を沈め、一年七ヶ月勤めて、三百七十七圓に増したるもの。

同じく三百四十圓にて身を沈め、滿二年の後に、四百圓に増したるもの。

等がある。其反對に減つた者の中には

前借金四百五十五圓にて娼妓となり、二年一ヶ月勤めたる後、四百五十圓になりたるもの。

即ち二年一ヶ月の醜業によりては漸く前借金の内金五圓だけを拂ひ得たる如き例がある。

二一　詐僞行爲

これは如何にも矛盾極まる話である。若し貸座敷營業者が娼妓に前借金を貸し、醜業を以て之を辨償せしむるに當り、其十分の七迄は段々借金が殖るばかりで、一向減少しないといふことが事實であるが、彼等は何んの物數奇に引續き然んな娼妓を抱へて損の引續きをする筈があらうか。下宿屋の主人は長く置く程喰込む下宿人を、其儘に下宿させて置く筈がない。又借家の持主は段々家賃が滯るばかりの借家人で、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

立退を請求しないといふ例はない。然るに貸座敷營業者ばかりは、其家に置くほど借金が増す一方の娼妓を留め置き、之を留置くのみならず更に同樣の娼妓を幾人でも抱へ、一軒の家で然うするのみならず、全遊廓がそれを爲し。然ういふ喰込んでばかり居る娼妓が出て行かうとする時には、極力妨害して何卒いつ迄も居て貰ひたいと努めるのは何ういふわけであるか。少し常識のある人ならば、皆一見して玆に大なる詐僞行爲の行はれて居ることを想像し得るであらう。卽ち彼等は文盲無智なる人の娘を連れて來て奴隷となし、一度身代金を以て彼等を束縛するだけではなく、引續き其帳面づらを誤魔化しては所謂前借金の高を殖し、彼等を身動きもならぬ程幾重にも金の鎖で縛りあげ、顏色の甚しく衰へない限り、健康狀態のどうやら持ちこたへる限り、いつ〳〵迄もこれに醜業を營ましめずしては止まぬ方法を取つて居る。娼妓の貸座敷營業者に對する債務をやかましくいふ今時の警察官は、何故一歩踏み込んで、貸座敷營業者が年中帳面づらを誤魔化しては借りもせぬ前借金を娼妓に負せ彼等を借金で縛つて何時迄も引留め樣など丶試むる詐僞行爲を檢擧せぬだらうか。

或時貸座敷營業者の帳面上、長く置くほど前借金の增す一娼妓が、救世軍の手に由て廢業を願出ると、樓主は飽く迄も之を妨害し樣と試みた。そこで掛の士官が彼にむかひ。「併し貴君の方では、此婦人を置けば置く程、損をするといふではないか。若しそれが本統なら、此ういふ婦人は貴君の方から廢業させて、後の世話を救世軍に賴んでこそ引合ふ話ではないか。否々一歩進んで言へば、最初抱へた時に此んな女は直ぐ證文を卷いて、廢業させて置いたなら、一層勘定が合ふた筈ではないか」と言ふと。樓主は苦笑して「それは帳面上は帳面上ですけれ共」といふたさうである。私共は貸座敷營業者が此辨別もなき無告の婦人を相手の大仕懸なる詐僞行爲を平氣で許して置く公娼制度の如きものを打破してしまはねばならぬ。

三　娼妓となる原因

彼等は何ういふ原因で娼妓となつたであらうか。これは至つて複雜な問題である。之を取調べることが決して容易でない。卽ち前から述べて來た家庭の模樣も教育の關係も、職業の狀況も、其他種々なる事情は、凡て直接間接に、彼等をして娼妓とならしめた原因でないものはない。が今こゝには、も一度、彼等が娼妓になつたに就て、最も強く、且つ最も近き主要の原因を尋ねて上げて見たいと思ふのである。百人の娼妓の中、材料の不揃なもの十數人を除き、殘りの八十二人に就て調べて見るに。

一 貧困の爲め		四五
内	父を喪ひ、母ばかりで貧困なる爲め	二〇
	兩親に働きがない上に子が多い爲め	一四
	子は少けれ共兩親に働きがない爲め	五
	母がなく、父ばかりで貧困なる爲め	五
	姉の大病の爲め	一

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

一家庭の惡しき爲め　一九
内　家庭紊亂、親の品行の惡い爲め　一二
　繼母又は繼父に賣られて　四
　兄や祖父母などに賣られて　三
一客商賣の果(自墮落の結果)　七
一他人に欺かれて　五
一不緣の結果　五
一娼妓を羨みて　一

即ち半分以上は、貧の爲めに娼妓になつたといふのである。中には貧は唯申わけだけで、他の理由の方が勝つたものもあらうが、今一々細かに之を判斷することが六かしい。とは云へ生活難が婦人の醜業を營むに至る、最も有力なる原因であることは、今更疑ふべき餘地もない。併し乍ら生活難の爲に醜業を營むことの不都合なるは、猶生活難の爲に盜みをすることの不都合なるが如くである。然るを家が貧しいからとか、又は親の困窮を助ける爲めとかいへば、直ぐに公然醜業を營むことを許す今の公娼制度が間違つて居るではないか、どんなに貧乏したからといふて惡いことは出來ない樣に仕向けよ貧窮なる家庭の婦人は、醜業を營ますとも何か他の正業に就き得る樣に其便宜を圖つてやらねばならぬ。

二三　婦人を欺く男子

親兄弟、又は繼父母等が博奕をうつたり、酒を飲んだり、惰けたりした後始末の爲め、娘に醜業を營ませ、又然うすることを許されて居る、公の公娼制度の不都合に至つては、今更辯ずる迄もないことである。

客商賣の果、自墮落の結果、娼妓となる者が幾人かあり。又他人に欺かれ、口車にのせられて、苦界に沈む者も少なくない樣子である。尤もこゝに他人に欺かれてといふのは、唯他人に欺かれて直接に娼妓になつたものだけのことで、若しもつと以前に遡り、最初に他人に欺かれて其貞操を失ひ、それから段々落ぶれて娼妓になつたもの迄勘定するならば、それは中々八十餘人中の五人やそこらではないのである。世にはトルストイの「復活」にあるカチューシャといふ婦人の樣に、世の輕薄男子に弄ばれ、辱しめられ、陥れられて、貞操を失ひ、やぶれかぶれの末が遂には手もつけられぬ淫婦となる如き事も決して少ない數ではない。唯殘念なのは「復活」のネフリユードフの樣に、心から自分の非行を悔いて、純潔の德を慕ふ男子らしい男子の一向世に現はれないことである。

二四　常設醜業婦展覽會

唯一人ではあるけれ共、娼妓を羨んで求めて娼妓になつた者がある事實に注意して置きたい。今の遊廓には張見世といふ不都合極まる制度があつて、年中盛裝したる娼妓を店頭に列べて薄志弱行なる男子の肉慾を挑發する仕かけに出來て居る。今殖産興業を奬勵する爲には時々各地に博覽會、共進會などを開き、其地方々々の產物を陳列して、是を公衆に見せたり、賣つたりすると。自然さういふ品物の需用を增し、

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

又供給を加へるといふのである。然らば彼の盛裝したる醜業婦を陳列し、而も三十日や、五十日の臨時の催ではない。年中、大仕かけに之を開催し、折々には櫻だの、燈籠だの、酉の市だの、乃至は所謂花魁道中だのいふことさへ擧行して、景氣をつけて群衆を引き寄せる。あれは一體何ういふ目的の爲にすることであるか。つまり今よりも多く醜業婦の供給を見る樣、又其需用者を殖す樣にといふ其以外に目的があらうとは考へられない。案の錠さういふ常設醜業婦展覽會を見物に出かけ、それから下劣なる肉慾を挑發せられて、立派な道樂者となり、親不幸者となり、詐僞師となり、盜賊となる男子は數限りもない程起つて居る。それかと思へば、斯かる常設醜業婦展覽會の効驗が婦人に迄も及び、堅氣な女中奉公をして、年中水仕事などするよりは、遊んで軟かい物を着られる娼妓の方が、優しであらうといふ樣なつもりで志願して賣女となる者さへ現はれて居るのは、彼の奴隷賣買業者に取りては、如何にも本懷の至であらうが、他の一般良民に取つては、此れ程迷惑な話といふがあるものではない。今の愛知縣知事、法學博士松井茂氏は、前年警視廳に在勤中是非東京市内の貸座敷の、せめて張見世だけでも禁じたいと思ひ、それに關する材料を調べて、警視總監の所斷を仰がれやうとする間際に、不幸にして職を去られたのださうである。松井博士が警視廳に居られたのは、もう十年一昔も前の事であるに、其後の當局者は何うして居たのか、なぜ速に此ういふ不都合な制度を、絶滅する位の英斷が出來ないのであらうか。

二五　自由廢業の動機

一旦娼妓になつた彼等は、如何にして自由廢業を思ひ立つ樣になつたのであらうか。今百人の中、其事情の最も明白なもの八十四人に就て、之を取調べて見るに左の如くである。

一　借金が増すのと、病身なるのとにより　二四
一　借金のみ殖える故　一七
　内
　　計算を誤魔化され勝手なことをされる故　一三
　　親兄弟が不心得で借金が増すばかり故　二
　　末の見込みがない故　二
一　病身なる故　一三
　内
　　喘息にて客にいやがられ　一
　　脚氣で苦しいのに無理に客をとらされ　一
　　胃腸病、心臟病にて困り　一
　　兩肺結核なれども稼がせられて　一
　　花柳病にて片眼つぶれ世を悲觀して　一
　　妊娠して借金が殖えるので　一
　　「リユーマチス」肋管神經痛、眼病併發にて
　　(二三軒住替させられたる)　一
　　花柳病で聲が出ず、客が呼べぬので　一
　　其他諸病の爲め　五
一　情夫に關係ありて　一二
　内
　　情夫の許に行きたくて　五
　　情夫とうろつきたる後進退窮りて　四

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

一 情夫をふみ臺として　一
一 情夫の自殺未遂故義理にせまり　一
一 身請の話不調故　一
一 虐待に堪兼ねて　四
　内
　お茶挽の時など寒中浴衣一枚にして
　座らせた上に毆打されたるゆゑ　一
　虚弱で客なく姉女郎に煙管で打たれ　一
　廓内へ買物に出たのに保證人を差押へられ　一
　警察へ主人の不法を訴へに出で圖らず救
　世軍士官に出あひ　一
一 向客がなくて借金が拂へぬ爲め　五
一 罪の商賣なることを感じて　三
一 朋輩の廢業するを手本に倣ひて　六

二六　滔々たる詐僞取財

要するに、借金の増すこと〻、病身なるとは、彼等が廢業の最も大なる原因である。八十四人の中、二十四人の此二つの原因が兩方揃ふて、苦痛に堪へず廢業を思ひ立つたものである。別に專ら借金が増すといふ理由により廢業した者が十七人ある。貸座敷營業者が計算を誤魔化し、借りもしない金を借りたことにし拂ふた金をも拂はぬことにし、年中詐欺取財をやつて居るのは公然の事實である。此點を捉へて裁判沙汰にするなら、今の貸座敷營業者の中に、懲役に行かずも濟むものは殆んど少なからう。娼妓が苦しがつて逃亡するのは當然の事である。逃亡しないで、まご〱して居るこそ憫然の至ではないか。

若夫れ娘なり妹なりを娼妓に墮して置てお負けに後から金を借りに行つて尙更之に重荷を負す樣な父兄は、父兄ではなくて人鬼である。人間の面した獸であると謂はれても、申わけはないのである。

二七　病氣するのが當然

專ら病身な爲に廢業を思ひ立つたものが、少なくない。これは實際さもあるべきことである。彼等の樣に、寢る時寢ないで、起きる時起きないで、食事はお麁末極まるものを一日二回しか食べさせられず、毎日肉慾の餓鬼の玩弄物となつて、心の中には不滿と悲痛とが滿ちて居り。それで置て危險極まる一切の惡病携帶者に侍べるものが病氣になるのは當然の事である。ならないのが寧ろ不思議な位であると思ふ。中には喘息で客にいやがられるとか、兩肺結核であるとか、花柳病で片目つぶれ、又は聲がかれて客が呼べぬとかいふ樣な者を、强て娼妓として稼がせる貸座敷營業者は人か、將た鬼か。抑ゝ又然ういふ者に强て醜業を營ましたる貸座敷營業者を其儘に見て居る當局者は、それでも當然の務を盡して居る積りなのであらうか。眞に不都合千萬な話である。

二八　情夫を慕ふもの

私は又情夫に關係ありて自由廢業をしたといふ、十二人の

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

娼妓の内に一言辯じて置きたいと思ふ。世には情夫を慕ふて自由廢業する娼妓を、唯わけもなく咎め立てをする人がある。併し乍ら娼妓が情夫を慕ふて廢業するのが、そんなに惡いことであらうか。彼等は公娼といふ如き惡制度の犧牲となり、官權の保護の下に經營せらるゝ遊廓に閉込められて居るものである。一旦遊廓に墮ちての後は、眞面目な人に出あひ、眞面目な話を聞く機會など、一切奪せられ、樓主からは不法な借金を負はされ、身體は病毒の爲に疲れ果て、心には時の間の安息すらない。それで置て自分は人並の婦人の如く、妻となり、母となるの權利をとり去られた、家庭の和樂を樂む便りもないものかと思へば、彼等が身も世もあられぬ程、心細く覺えるのが當り前の事ではないか。さりとて品行方正なる堅氣な男子には、絶て會ふことも出來ず。又顧みられもしない今の境涯であるから、せめては數多く通ひ來る男子の中、比較的賴りになりさうな人物を見立て、これ迄の樣に無暗に多數の男子に身を許す代りに、これからは只一人の男子に身を委ねたいといふ氣になるのは、寧ろ感心な心がけではあるまいか。彼等も亦人の子である。年頃の女である。それが一人前の女らしい世渡りをし樣と思ひ立つ時、自分の所へ通ひ來る男子の中、一人を見立て、其人と終生を共にしたい氣になるのが、なぜ惡いか。彼等に之よりも高尚なる道德、行屆いた身の處置を要求するのが無理ではないか。私は今の樣な制度の中に囚はれて居る娼妓が、他に爲すべき處を知らず、せめて情夫になりとも縋つて身の振方を定め樣とする心の中を憐れまざるを得ない。若夫れ多い中に一人や二人、偶に情夫をふみ臺にして廢業する者があつたからといふて、別に不思議なことはない。彼等は唯廢業したいのである。唯廢業して今の境涯を脱れる爲には窓から脱けやうと、遊客をふみ臺にしやうと彼等に取つて多く異る所はないのである。なぜかといふに彼等は遊廓に墮された以來、唯遊客は欺いて金を使はすべきもの、蕩らして弄ぶべきものとのみ、每日の樣に樓主や其雇人から敎へ込まれ、又それを實行させられて居る者共であるから。それが多い中に間々情夫を踏臺にして、廢業を企つるもの位あつたからといふて、それは彼等の罪といふよりは、寧ろ今の公娼制度の罪であると謂はねばならぬ。

二九　賴りにならぬ情夫

娼妓が廢業を思ひ立つ時、往々にして廢業の後は情夫と一緖にならうとつとめる。其心の中は諒とすべきも、彼等から左程に見込まれた情夫なるものが、果してそれ程當てになる人物か、否やに至つては自ら別問題である。或時吉原に一人の娼妓が居つた。そこへ繁々足を運んで居つた一人の學生があり、餘りの放蕩ゆゑに親から勘當せられた。すると其娼妓は氣の毒に思ひ「私故に勘當せられなさつたのだから、私が成業させて見せる」と。其以來一生懸命に稼いでは、男に仕送をした。併し乍ら不幸にして其男はそれ程にされる値のある人物ではなかつた。娼妓は年期を延ばして、遠州の濱松に住かへ、尙も仕送を續けたが、男の方では娼妓から仕送をせ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

られたる艶麗を鼻にかけ、益〻放蕩をしたので、娼妓の志は無駄になり、全く失望に陷らざるを得なかつた。果は心配の結果、眼病をわづらひ、苦しいまぎれに自由廢業して救世軍に賴つて來たので、之を引取つて世話をするうち、其男といふが尋ねて來、尚も二人の關係を以前の通りに繫がうと試みたが、今度は婦人の方で承知しなかつたのである。其後男は終に病死したので、女の方は然るべき職工の妻となつて、眞面目に稼いで居るのである。これを思へば、今の公娼の惡制度故に、自分が其氣でもないもの迄、否應なしに奴隸賣買業者の手に渡され無理非道の待遇をうけて若い身そらで人の妻となり、母となる婦人の權利をさへも褫奪せられた者が。せめて賴りにもならぬ情夫になりとも賴つて、身の行末を定め樣と苦心するこそ、世にも憫然なものと謂はねばならぬ。

三〇　樓主の虐待

八十四人の中に特に樓主の虐待に堪兼て廢業したといふものが、四人ほどあり、最も此外に、前の無理に借金を殖やされたり、病氣になつても強て醜業を續けさせられたりして苦んだ者四五十人を合算すれば、娼妓の大部分は日夜唯樓主の不法なる待遇の爲に悲み悶へて居るもの共である事情を、推察するに難くない。いつぞやも吉原の某樓から、廢業して賴つて來た二人の娼妓の話に、同樓の若主人といふは、如何にも氣立のやさしい人にて、新しい娼妓の抱へられて來る度ごと、「復お前も苦勞しに來たか」といふては、泣て居られたが、さういふことがあると、其主婦はいつでも若旦那を膝の下に敷て、管烟で敲きながら「そんな氣の弱いことで此商賣が出來ると思ふか」といふて、責諫し怒鳴つて居られた處、若旦那は終に病氣になつて死んでしまはれましたと、いふ事であつた。私共は貸座敷營業者の、娼妓に對する虐待を憎み、此ういふ奴隸賣買業者の言語同斷の行動は、一日も棄て置くべきものでないことを痛切に感ずると共に、一方では又今の公娼制度の成立ちが、彼奴隸賣買業者等をして斯なさしめねば止まぬ樣に出來て居ることを思ひ。それに就けても、一日も早く公娼全廢の日の來らんことを切に祈つて止まぬ者である

三一　所謂忠孝兩全の道

それでも娼妓稼業が罪の商賣であることに心付、廢業を思ひ立つた者が三人だけはある。娼妓稼業の罪深いことをだにも敎へられぬ。彼等の身こそ憐れではないか。彼等は身賣をして醜業を營むことが、親への孝行と思ひ、又如何なる無理を仕向けられても甘んじて樓主に從ふことが、主人への忠義だと敎へ込まれて居る。そんなことで、どうして賣淫が罪の業だと悟ることが出來やう。彼等が醜業を營むのは親への孝行である、主人への忠義である。斯くてこそ忠孝兩全の立派な婦人になれるのだなどゝ、勝手なことを吹き込まれて、それを然うではないと判斷する丈の智慧分別もなき彼等である所謂「暗黑に住む民、死陰の谷を歩む人」とは、彼等の事である。私共は如時迄、此ういふ不幸なる同胞を其儘見殺しにし

て置くことが出來るであらうか。

三二　始業廢業の年齢

彼等は幾歳にして娼妓となり、又幾歳にして自由廢業を遂げたであらうか。

年齢	娼妓になりし數	自由廢業をなせし數
十八歳	二	｜
十九歳	二三	一
二十歳	一八	一〇
二十一歳	二〇	一二
二十二歳	一二	七
二十三歳	八	一九
二十四歳	八	一二
二十五歳	三	一四
二十六歳	四	一二
二十七歳	一	七
二十八歳	｜	｜
二十九歳	｜	一
三十歳	一	｜
三十一歳	｜	三
三十二歳	｜	一
三十三歳	｜	｜
三十四歳	｜	一

滿十八歳でなくては娼妓になれぬ筈であるから、こゝに十八歳で娼妓になつたといふ二人は、戸籍を誤魔化したものであることが分かる。娼妓になるものが、十九、二十、二十一、二十二の四年の間に最も多いのは、右の數字に見ゆる通りである。中にも茶屋女などして居り、年齢に達するのを待兼て、娼妓になるものは、十九、二十歳の間に多く。亦遊廓にて所謂「禿」の名の下に娼妓の見習をして居つた者も、同じ年頃にて其鑑札を受けるさうである。それより後は娼妓になる者には、出戻りの女や、工女のあがりや、又は農家の娘で嫁入支度も出來兼ねる樣なものが比較的に多い樣子である。

廢業する方は、娼妓になつてから最初の二三年に限る樣である。それを過ぎると、豚は汚穢に慣れて汚穢を覺えぬ習、泥水稼業に沈んで其社會を飛び出す考へがなくなるらしい、其事は次の項目を見れば、一層明瞭になるであらう。

三三　舊幕時代よりも殘酷

江原素六翁の話に「舊幕時代には、娼妓は二十四歳になると解放したもので、金を貸すにも其見込で控目に貸して居つた。然るに今時は娼妓が幾歳になつても關はず、成るたけ長らく醜業を營ましめる樣にと、無暗に貸金の高を殖して其引留策を講ずる。それ故遊廓にて婦人を奴隷にする程度は、今日の方が舊幕時代よりも餘程殘酷だと謂はねばならぬ」とのことであつた。今此話によつて、も一度前の表を調べて見るに、成程娼妓になる方にも、二十五歳以後のが、百人の中に九人程あることは事實だが。同時に二十五歳を越して後に廢業した者が三十九人、卽ち百人中の彼此れ四割に近く、中には三十一歳で廢業したものが三人、三十二歳が一人、三十四歳が一人といふことになつて居る。それさへ自由廢業したればこそ、其年で自由の身になつたのであるから、これが若し

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

貸座敷營業者てふ、奴隷使役人の要求する儘になつて居つたものなら、一體幾歳になつて娼妓を止めることが出來たのであらうか、餘りといへば、際限もない話ではないか。

三四　最初の一二年に限る

尚試みに、百人の廢業娼妓は、どれ程の間娼妓を勤めて居つたか。即ち娼妓になつて幾年目に自由廢業をしたかといふ事を考へて見るに、左の如し。

	上半年	下半年	計
第一年	一一	一九	三〇
第二年	一四	一八	三二
第三年	八	一一	一九
第四年	四	八	一二
第五年	五	一	六
第六年	一	〇	一

即ち娼妓になつた其年と、翌年とに自由廢業が最も多い。即三年目になると少し數が減つて、四年を過ぎては著しく減ずる。追々泥水社會に化されて慣れて平氣になつてしまふからである。近頃或紳士の話に、或時其の親戚の家に一人の女中を置た處が、國許の親が引戻して娼妓に賣らうとする故大きに心配して種々盡力したる甲斐なく、娘は親許に連れ歸られ、到頭娼妓に賣られてしまふた。困つたことになつたものだと、尚も根氣好く其救濟方に骨を折るうち、いつしか多少の時日が經つて見ると、本人の考へが、がらり變つてしまふた。即ち前きには娼妓になるのが厭だといふて、泣てばかり居た娘が、今は却つてそれを好い事に思ひ、外部から彼此れ騒ぐのを五月蝿がつて、「どうか放擲つて置て下さい。私が貴殿の所へ女中奉公して居た時、一月働いて戴いた給料位、今は遊んで居て、一晩にとれることもあります。こんな氣樂な商賣といふはありませぬから、何年此儘にうつちやつて置て下さい」と、いふ樣になつたとのことであつた。まさか娼妓だからといふて年中さうした收入があるわけではないが、時としては詐僞師や、巾着切など、自分の腹を痛めぬ泡沫錢をふり播いて行くこともあるので、此女は然ういふ味を占めて、最早全く堅氣な生活が厭になつたものと見えるのである。それ故娼妓の廢業は、彼等が娼妓になつて尚日の淺き間に限るのである。段々年を經て、此里の汚濁なる空氣に染んでしまふてからは、最早濟度の見込みが至つて少ない。隨つて今の遊廓制度の如きに於ては、娼妓が貸座敷營業者の意志に背き、其前借金の有無に關らず斷然最初の一二年間に廢業すれば可し。さもなくて彼等の言ふが儘に二三年を過してといふものは最早未來永劫、殆んど浮む瀨のないことになるのである。これも記憶して置くべき、一つの大切なる點であると信ずる。

三五　自由廢業は救世軍の專賣に非ず

然らば百人の娼妓は、如何にして救世軍の助を求めて來たであらうか。

一　逃出して助を求めに來りしもの　五五
一　手紙にて賴み來り士官を出張せしめしもの　三五

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

一自分で廢業し警察に敎へられて來りしもの　一
一其他　九

なぜ彼等は手紙で救世軍に訴へて來るか。又は逃出して救世軍に縋つて來るか。なぜ取締規則に明文のある、自由廢業が救世軍に賴まねば實行出來ぬであらうか。其理由は唯二つの外にない。卽ち一つは樓主及び其雇人が彼等の廢業を妨げることにて。今一づは警察官が彼等の廢業願を聞てやらぬことである。唯此二つの外には、彼等に廢業の志があつて、しかも廢業の出來ぬといふ筈がないのである。けれ共娼妓取締規則には、これ等の點に就ての立派なる明文がある。

娼妓名簿削除申請に關しては何人と雖、妨害を爲すことを得ず。

警察官署に於て娼妓名簿削除を申請したるときは、直に名簿を削除するものとす。

而して前の項目に該當する者は「三月以下の懲役、又は百圓以下の罰金に處する」とさへ、定められて居る。それにも拘らず、娼妓が廢業を願ふ時、滅多なことでは其爲に警察署に出頭することが出來ず、出頭しても中々に其願意が成就せられず。僅に救世軍に賴つて志を果す狀態にあるといふのは、どうしたものであるか。

百人の中に唯一人だけ、珍らしくも自分一人で警察署に出でゝ何んと言はれても屈せずに終に廢業の素志を遂げたが。偖愈ゝ自由の身になつた處で、往くべき先がなくて當惑して居る所に。折柄巡回して來られた警視廳の某方面監察の指金により、救世軍にたよつて來たといふ樣なのがある。此の如きは救世軍が娼妓救濟に從事して以來十數年間、殆んど他に類例のない事實であつた。併し乍ら本統のことを言へば、此ういふ種類の自由廢業こそ、年中絶ず各遊廓に起つて居つて然るべき筈である。それが娼妓の自由廢業といへば、救世軍の專賣特許でもあるかの如く、一々救世軍士官が口を利くのを待つて、始めて實行されるといふのは、警察官吏の怠慢である。又日本國民の汚辱であると謂はねばならぬ。

三六　警察官の扱ひ振り

救世軍士官が娼妓に附添ふて出た場合、警察官の自由廢業を扱ふ態度は、近來餘程改まつて來た樣子である。それにも拘らず、今でも尙其都度先づ樓主を呼出し、娼妓をして、之と所謂「示談」を試みしめる。其所謂「示談」なるものはそれが遊廓の外であつたなら宜しく脅迫、迫害、讒謗、誹毀等の語を以て呼はるべき動作であれど、こゝでばかりは、之を「示談」と通稱せられて居る。而して彼等は此所謂「示談」に於て、娼妓に廢業を思ひ留らせ得ない迄が、少く共所謂「合意廢業」といふことをする樣にと說付けるのである。先達も洲崎某樓の一娼妓が自由廢業を思ひ立ち、救世軍の助を求めて來たゆゑ、士官が附添ひ、警察署に行つてやると。娼妓は肝心の所で決心が鈍り樓主に說き伏せられて、合意廢業といふことに同意した。然るに此婦人は多少精神病の兆候あることとて、多分それにて納りが附たことであらうと、士官は稍安

心して歸つて居ると。或日突然同人が愛知縣から逃亡して來た。而して言ふには其節樓主が名古屋の親類にやつて、腦を休ませてやると言はれる故、其つもりで行つて見ると、案外にて、大洲の勢州樓といふのへ、前借金二百圓で賣られたのでありまする」とのことであつた。此の如き者が即ち、警察署で一々樓主を呼出し、娼妓と所謂示談を試みしめたる結果、自由廢業でなくて合意廢業をしたものゝ成行である。一事が萬事、此筆法で執り行はれるのであるから、今の警察官の娼妓自由廢業に對する扱ひ振りは中々滿足せられさうにもない

三七 自由廢業不許可

東京其他最寄りの地に於てさへ時たまには斯ういふこともあるのだから、それが少しかけ隔つた地方である場合には、警察官の娼妓廢業に對する取扱ひ振りが、益々其意を得ない樣なことが甚だ多い。左に掲ぐるは、最近に在京都の救世軍士官から私の手許に屆いた報告の要領である。

京都府下伏見町團田某方、娼妓奥村某女(三十)は、既に去る五六年の間娼妓稼業を續けて居り近頃では腦病、リユーマチス、癪などの諸病が併發し、廢業を思立つて廓を逃出し、救世軍の京都小隊に來て助を求めた。乃で去七月十四日受持士官は本人同道にて伏見警察署に出頭し、名簿削除を申請した處が、署長某警視は「娼妓と樓主と連印で願ひ出でずば聞届けられぬ」と答へた。併し去明治三十三年十月、娼妓取締規則の改正以來、そんな筈はないことである故、之を爭ふたが署長は頑として連印を主張して止まない。それ故、士官は「本人は前きに樓主にむかひ、借金は堅氣になつて後月賦で拂ふ故、廢業に同意してくれと頼んでも聴かれぬので、餘儀なく自由廢業を思ひ立つたのだから」と、辯じたけれ共署長は受付けない。彼此れするうち、樓主側より數名の暴漢來り、強て本人を連れ歸らんとする故、士官は大聲に「お前方は指一本でも此婦人に觸れてはならぬぞ」と、怒鳴つて彼等を戒め暫く本人の保護を警察署に頼み、事情を保安課に訴へんものと、獨り其場を立出でた。漸く二三町來たと思ふ頃、忽ち暴漢が、襲ひ來りて強て之を遊廓事務所に引張り込み。五六十名の暴漢が交る〴〵士官を亂打し、終に夜の十一時半迄も留置し警察の注意を受けた結果辛やく歸京せしめたのである。

翌十五日朝、士官は京都府の保安課に行き、課長に面會して伏見署長が故なくして娼妓の廢業を拒絶したる事、又遊廓事務所に於ける亂暴狼藉を見て見ぬ振りに過したる事等を訴へ、其處置を求めて居る所へ恰度伏見署長も出て來たので、直ぐに取調があり其結果士官にむかふて警察の不行屆を謝し、且つ本人は直ちに名簿を削除せらるべきことを告げられた。乃で其翌々日本人を引取つて漸く解決した。

これは唯最近に起つた一箇の實例に過ぎない。併し乍ら聰明なる讀者は、唯此一箇の實例の中に、如何に今の日本の奴隷賣買制度が、殊に或地方に於ては官權の誤りたる保護の下に、其猖獗を逞ふして居るかを察し得て餘りがあることゝ信ずる。而して此の如きは公娼制度全廢の曉に至らざれば、決して之を根治するの見込みなき事柄である。公娼制度全廢は眞に止むべからざるの急務であると謂はねばならぬ。(完)

論議

天の啓示に從へ

婦人矯風會副會頭　本多貞子

△日本は非常に偉くなつた

私は今日此のお席へ出ます事は御約束は致しましたが、教會の働きが忙がしい爲に、題も考へずに參つた次第で、甚だ失禮ですが眞の心に浮んだ丈を申上げて皆樣の御參考に致したいと思ふので御座います。

皆樣も御聞きの事であらうと存じますが、今日我國で廢娼の必要なる事は學問上からも道德の上からも明かなる事でありますが、日本の體面上から考へましても必ず斷行せねばならぬ事であると思ひます。今日の日本は東洋の日本ではありません。實に世界の日本であります、よく〳〵考へねばなりません。此迄日露戰爭をなし、戰さでは勝ちましたが、外交方面から申さば不滿足と思ふ人もありませう。即ち彼の時には勝つは勝つたが、日本はまだ其程强いとは云はれない。云はゞまだ〳〵微弱な所があつたのであります。然るに此度は日露戰爭とは違ひ歐洲に於ても最大强國と云はれて居る獨逸と戰つて居るのであります。それのみならず先年我國に破られた露國が其獨逸と戰つて非常に優勢であると申して居るのであります。そして又獨逸の靑島は我國が之を征伏して終つたので、日本が非常に偉くなつたと云ふ事が分りませう。それで歐洲では日本の兵を此方に向けて送つて呉れないかと申して居ると新聞などにも出て居ります。此等の點を考へて見ますと日本は日露戰爭の時よりも偉くなつて始めて世界の舞臺に顯はれたと申しても宜しからうと存じます。

△穢ない處は除きたい

日蔭に隱れて居つた時には少し位穢ない所があつても人が見て呉れませぬから構ひませんが、人並以上に立派になつてからは、どうか家や庭の上にも穢ない所がなく、成るべく花などの咲いて居る樣な立派な處を人に見せたいのは普通の人情であります。此頃はまだ菊の花が咲いて居りますが、どうか其菊の咲いた樣な處ばかりを外國人にも見せたいと思ひます。然るに日本には實に外國人に見せられぬ樣な穢ない處があります。此は實に私等が心配する所で、どうか此の穢ない所はなくしたいと思ふのであります。一寸私などは世界的などゝ云ふ事は考へられない事であるとしても、私の兄とか妹とか云ふ者の中から感心な人が出たとか勉强な人であるとか云はるゝ人があれば誰しも嬉しく思ひませう。其が若も自分の家族の中に狂人があるとか、痴呆が居るとか申されたなら、まして牢獄に入れられる樣な罪を犯した者が出たとするなら

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ば、誰しも之を恥と思ふのでありませう。之は皆樣も御同感であることゝ存じます。然るに我等同胞の中には賤しい業を營みつゝあるものがあります。奴隷の樣な境界に居て人に見せられぬ樣な業をなして居るのであります。日本人は淫賣國民であると外から申されて居るのであります。殘念ではありませんか、恥辱ではありませんか。之を廢止して此の穢ない處を除き去つて立派な處にして、外國に對しても恥かしくない樣にするのは今日の急務ではありますまいか。

△神に背く者は罰せらる

私はクリスチヤンでありますから、聖書を讀んで居ります。其に由つて見ますと猶太人は神より豫言者を與へられて居て其爲す事皆豫言者の言に從つて致します。豫言者の惡いと云ふ事は之を爲さず其爲せと云ふ通りに致しましたので、強い敵にも勝ちましたが、若も豫言者の云ふ事に從はぬ時には戰には負け、國が亡ぼされたのであります。即ち或時にはバビロンに捕虜の樣に國民一同が連れて往かれた事もありました彼の創世紀にある處の洪水の如きも學者の說によると何か六ケしい議論もありませうが、矢張り神のお示しに從はなかつたのであの樣な殃を蒙つたのであります。若又一旦惡い事をなしても罪を悔い改めて神の敎に從ふ時は又福を得る事になるのであります。今日本の有樣を考へて御覽なさい。國運は益々進んで來ました。此勢に乘じて私等は其惡い事を避け、善い事に從つたならば、吾々は益々繁昌するのでありませう。天の神は我等に早く其非を悔ひ改めて、神の道に從ふ事を啓示して居るのであると思ひます。若も此時此の啓示を無視して罪惡を重ねると云ふ事あらば、猶太人民の樣に神の罰は免れぬ事であると存じます。

△惡病に罹る人は痴呆者なり

日本の今日の社會には痴呆の樣な者が居ります。狂人の樣な人もありますと申すのは、戰に勝つた、戰死した人は氣の毒な事でありますが、其幸に生殘つた幸福な人が態々惡所通ひをなして惡い病氣を引受けると云ふ事は何の爲でありませうか。其病の爲に單に己一人を害するのみではありません。子孫にまで病毒を傳へると云ふ樣な人があつたならば、私共一家族の中の痴呆者と同しではありませんか。大凡軍人が出征致しますと、跡に殘つた家族の者は申すに及ばず、他人までが、どうぞ無事で歸れる樣に祈つて居るのであります。其人に對しても、戰爭では死なかつたが、其代り惡い病氣を引受けて來て、一生健康な身體にはならない。のみならず子孫までも其害を及ぼす樣にして來たと申したなら、朝夕無事なれかしと祈つた人に對して申譯が無い事ではありませんか。此點から考へても私は娼妓なる者は廢して終ひたいと思ふのであります。

△醜業の公許は殺人よりも罪惡也

世の中には神はないと思ふ人があるかも知れませぬ。神は

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

眞にあるかないか判然とは分らぬにしても、神があると考へた方が何かに都合が宜しいのであります。そして其神はチヤンと見て居ると思ふて居るとは道徳上にも甚だ善い結果を來すのであります。今我々は日本帝國と云ふ立派な國に生れ茲に住んで居りますが此は偶然と云はゞ偶然かも知れません。然し私共は神は私共を此の立派な國に生れさして下すつたのであると考へ、之を忝なく思つて居ります。然し唯忝なく思つて居るばかりでは何の役にも立たぬ。私共は益〻此國を善美なる國となし、世界に日本帝國なる一模範國を與へんとせねばなりませぬ。模範國となるには單に戰爭が強いばかりではなく、日本人は道徳の點に於ても、衞生の點に於ても世界の手本となり、如何なる事が襲ひ來つても之に負けぬ樣にせねばなりませぬ。他國の事は云ふにも及びませぬが、獨逸などは隨分亂暴な事をなし、戰時の國際公法を無視して、非戰鬪員を殺戮したなど〻新聞にも傳へられて居ります。是は甚だ善くない事と思ふが、日本の今日は人を殺すよりも尙害になる事を爲して居ると云はゞ皆樣はなんと御考へになりますか。道徳をも害し、健康をも害し、延いて子孫まで害を及ぼすべき機關を公然許して置くと云ふことは或意味に於て人を殺すよりも害惡であると思ひます。どうか早くこんな惡事を廢して立派な國に致したいと思ひます。

△天の啓示に從へ

か〻る害惡を與ふる惡制度は外國人に知られない內に廢滅して終ひたいと思ふが今では已に外國人に知られて終つたから已むを得ませんから、今では斷然之を改めて日本人は戰爭に強いばかりではない。惡を改めるにも實に強いと云はれる樣にしたい。或人が大酒を飲んで居つたが、近頃は其好きな酒を止めたと申したら、親類も友人も驚いて、却つて喜ぶのであります。日本で今日一番偉い者は何でありませうか。米の產出だらうか。生絹の製造高だらうかと考へて見ますと皆外國より劣つて居るが、獨醜業婦の產出に至つては此程多い國は世界廣しと雖も外には決してないと申す事であります。其も其筈です。內地に於ては公然許されて居て、警察官監督の下に醜業を營んで居るのですから、外國に醜業婦が渡航するなどは決して怪むに足りませぬ。立派な見世で見せびらかして居るのでありますから、外國へ往く醜業婦を禁止しようなど〻云ふ事は無理な話であります。內地で恥を曝すよりも知らぬ異國でやつた方がよいとなるのでありますから、之を防ぐにはどうしても內地の公娼を先第一に廢止した方が善からうと存じます。人は一旦罪を犯しましても、之を悔ひ改めて神の道に從ふ時には神は見捨て給はず必ず御惠み下さる。日本は是迄醜業婦を公許して、世界一等の醜業婦の產地として名高くなりましたが、之を改めて善道に從へば必ず救はれます。我が廓淸會は男女の貞操を純潔にすると云ふ大目的を持つて居りますが、其には先第一に此醜業婦を無くして終ひたいと云ふのであります。皆樣は已に此の主義に御賛成の事とは思ひますが、若未だ御賛成ない方は速に御申込み下さる樣に願ひます。日本に於ける醜業婦を撲滅すると云ふ事は今日實に天の啓示であると存じます。

英國婦人と日本婦人

ドクトル、オブ、サイエンス　植原悅二郎

△男女の尊卑は優勝劣敗のみ

私は英國の婦人と日本の婦人とを比較して、其長短を評して見たいと思ふ。尤も一概に英國の婦人日本の婦人と云つた處で種々の型があつて、或は私が英國の婦人として語る處のものが、歐米の婦人と共通のものであり、日本の婦人とする處のものが東洋の婦人と共通の點があるかも知れないが、要するに英國の婦人は西洋に於ても一般に最も婦人の地位の進んでゐる國である事を承知してゐて貰ひたい。

一體、西洋では女尊男卑である、東洋に於ては男尊女卑であると誰しも考へる。なる程あちらでは男女が一緒に道を歩いてゐる時女の靴の紐が解ければ、乾度男が結んでやる、殊に我々東洋人として奇異の感に打たれざるを得ないのは、お客に招かれ乍ら、先方がお孃樣や何かであつた場合には、お客たる私が主人公たる其令孃にお茶を汲んでやらねばならぬ事である。而して令孃は悠然と腕付椅子か何かに凭つて居るのである。斯ういふ樣な有樣を見る時には、如何にも女尊男卑の國のやうに思はれる。けれども實は這麼事を以て尊卑を測定せんとするのは餘りに皮相な觀察であると云はねばならぬ。男がお茶を汲んだり靴の紐を結んだりするのは、服裝の上に大關係があるのであつて、尊卑の問題ではなくて、便宜上から來つた結果に外ならぬのである。

此問題を解くには一歩進んで家庭の奧に這入つて行かなければならない。さうして仔細に其生活を觀察して見るに強ち、女尊男卑であるとか又は男尊女卑であるとかいふ樣な結論を容易に發見し得ないのを知るであらう。英國の婦人はなかなかよく良人を助ける、決して道路を歩いて居る時のやうなものではない。時としては如何にも夫人の方が主人より以上の權力を揮つて居る者もある。併し之れとて女尊男卑といふ事の論證といふよりは、實は智識技能の多寡優劣によつて自然に獲得せられた者と見る方が適切であり事實である。日本に於ても妻君の方が或點に於て亭主に勝つて居る、或は其全生活に於て優れて居るが爲めに、女の方が威張つてゐる例はいくらもある、嬶天下なるものは卽ちそれである、嬶天下なるものは智識技能が亭主に勝つた結果である、簡單に云へば優勝劣敗に外ならぬ。

△内助の功の擧らぬ所以

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

然るに大體に於て其婦天下、委しく云へば男子に勝る女子を有する家庭といふものは、日本に於ては曉天の星の如く寥寥たるものである、最大多數は所謂「高等下女」信用のおける下女」たるに過ぎない、男子の殆んど悉くが其妻を以て語るに足らないものと定めて居る、女學校の教育の如何に貧弱なるか、あれはまゝごと教育である。あれでは到底現代人の侶伴たるには餘りに痴愚である無邪氣である。私をして曰はしむれば、女が威張るのは結構な事である、どうか男子に對して威張り得るやうな婦人が續々出て貰はなくてはならぬではあるまいか。

翻つて英國の婦人はといふと、實に男子の好侶伴である、周到親切な相談對手である。中流以上の女になると寧ろ男子よりも教育が勝つて居る、男は中流位迄にあつては妻を迎へる準備に忙しいから、いつ迄も悠々と學校に通つて居られない事情がある。米國に於ても男女混淆教育をやつてゐる各大學に於ては、常に男子の在學數よりも女子の方が多い、女子は男子よりも長く教育を受けて居られるだけの餘裕がある。斯うなつて來ると男が女に對して相當の尊敬、男が女に服從ではないが侮蔑する事の出來ないのは當然であらう。西洋に於ては妻の内助の功によつて男子が成功するといふ事は、數限りもなくある、日本に於ては殆んど全くそれがない、山内一豐の妻の一件の如きたはいもないものでは駄目である。

日本の男子は紳士と云はれる程の人でも婦人の前で甚しきは他人の家庭に於て醜い話を平氣でする、斯樣に婦人が侮蔑されて居ては内助の功などの擧らないのも宜なりである。日本人は男女ともつと禮を保たなければいけない。

△英國婦人の活動

今日の日本に於ては、女子に地位と智識とを與へなければ國民の進歩は困難である。今日の女は經濟上の獨立がない、今日の女は兄が死ぬと弟の嫁にされて平氣で居る、婦人は全く人間として取扱はれてゐない、財産＝動産視せられてゐるのである。兄の嫁が弟の嫁になるなど便利ではあらうが、人間扱とは思へない。佛蘭西では未だ多少親の干渉があるが、英吉利に於ては全く自由結婚であつて、而も何等の危險や不安はない、それは英吉利の女は第一精神的に獨立し得るを共に經濟上の獨立がある、家祿家業に重きを置いた時代は家長に與奪の權があつたが今日はそれがない。英國に於ては貴族は別だが、長男は家財を受ける丈であつて、財産は男女の別なく分配される。英吉利では女でも三越のデパートメント位のものを經營して居る者がいくらもある、日本で家にあつては親の財産であり人形であり器物であり、嫁しては夫の財産となり人形となり器物となるのとは雲泥の相違である。

又英國の婦人は活動する事に於て世界一であらう。日本婦人の活動と云ふと、愛國婦人會であるとか赤十字婦人會などがある位にしか過ぎぬ、而もそれも半官的なのである。英國に於ける婦人の活動は目覺ましい計りで、感化、救濟、博愛、慈善等の問題より文學美術音樂さては參政權の運動に至る迄

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

あらゆる社會的事業が婦人の手によりて盛に行はれてゐる。日本では芝居だ活動だ晝寢だと出來る丈閑を貪つて居て、六千萬の日本人と云つても半數の三千萬人は社會とか、人類とか文明とかとは沒交渉な生活してゐるのである、これでは文明に懸隔があるのは理の當然である。英國ではどんな上流の婦人でも活動する、尊貴な方々でも、畏くも皇后陛下さへ活動せさせられる。これは丁度自分が滯在中に而も目擊した事實であるからお話して見やう。

倫敦のさる工場に勤めてゐた年若い一人の工女が、肺を病んで入院した。病篤くして一ヶ月保つかどうかといふ醫師の診斷である、然るに此少女は幾年が倫敦に住み乍らまだ皇后陛下を見た事がない、日本と違つて倫敦に住みながら皇后陛下を拜しないといふ事は殆んどない國柄であるのに、此女は生活に逐はれた爲めであつたらうが未だ拜する機會を持たなかつた。そこで少女は自ら筆を執つて、陛下よ私はまだ貴女を見た事がない、私は今何々病院に横つてゐて茲一月生きられるかどうか分らない、願くば生前の冥加に一目お目にかかりたいものである、といふ樣な手紙を書いて皇后陛下に送つた。日本ならば不敬罪とでもなりかねない程の事であるがあちらでは、皇后陛下親しくこれを御覽遊ばして、哀れに思召され、萬乘の身を以て、可憐なる貧しき瀕死の少女を其病床に見舞はせ給ふた事があつた。

これは一例にしか過ぎないが、上は畏くも皇后陛下より下萬民に至る迄、社會生活といふ事の觀念が深い、個人の權利の進んだ處であつて而も公共の公德といふ事を重んずる、少しでも生活に餘裕があれば社會事業の爲めに活動する。

△吉原の女に涙を流す英國婦人

日本に於ては婦人の社會的事業といふものは一も見るに足るものがない、嘗て日本に於て最も社會的に活動する人として知られた有名なる某夫人さへ、某雜誌に藝娼妓の事を犬畜生と罵しつてゐた。一體藝妓や娼妓といふものは誰が作つた娼妓と雖も陛下の赤子である、藝妓と雖も我等の同胞である。それを憐れみ救ふ事を思はず、徒らに罵倒して得々たるやうな心持、態度でどうして社會公共の爲めに盡し得やう。自分が高い處にゐるからとて、犬猫と怒鳴つて彼等を救はんとはせずして却つて土足に蹂躪し去らうといふのは何たる事である、日本で最も有名な婦人にして尙且つこれである、況んや他の蠢爾たる一般日本婦人に至つては云ふ可きを知らない。こんな事を英國婦人に話したら涙を流すであらうと思ふ。參政權運動の穩健派の首領たるフォーセット夫人は、吉原が燒けた時、遙に東京市長に手紙を送つた程ではないか。而も日本婦人は國內の同胞が凌辱せられ、淺ましい牢獄に囚はれてゐても更に彼女達の爲めに涙を流さうとはしないのである。

これ等は、英吉利の婦人と日本の婦人と大に異る點であらう。或は英國の婦人といふとすぐに參政權運動を聯想して其亂暴を責めるが、これは寧ろ婦人より男子に罪がある、彼等の要求は極めて正當であつて何等の拒絕すべき理由はないの

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

だ、文學美術商工業に女は男と同樣に活動してゐて多額の税金を納めて、參政權を要求するのは當然である、だから今度の總選擧に於て此問題は解決されるに相違ない。或は婦人に參政權を與へると、主婦たるの任務を全ふし得なくなるなどいふものがあるが、そんな事は斷じてない。我々人類は男女を問はず腦力のある限り、活動するのが社會の發達を助け、婦人自身の爲にもなるのであつて、此社會は男子のみの社會ではない男女によつて成立つてゐるのであるから、選擧權を與へないといふのは、畢竟男子の我儘が出來なくなるからといふに過ぎない。此點に於て我々は日本に生れて誠に好都合である、人間といふものは兎角我儘が働く、むしやくしやして歸つて來るとつい妻にも無理な事をいふ、それでも日本の婦人ははいと云つて服從する、誠に日本の男子は有難い譯であるが、實は之は大間違である、人間はどうも我儘をしたがるもので、婦人は動物でないと思ふ時は、我儘を制せなければならぬ。我々の我儘を制し婦人の地位を高めるといふ事は、婦人自身の爲めばかりでなく、我々の生活内容を豐富にし人類の進化を速ならしむる所以である。（講演大要不經校閲文責記者）

獨逸婦人の活動

ドクトル　三田谷啓

記者曰、氏は獨逸にありて、專ら小兒の生活に就て深き研究を積まれたる方であつて、戰亂の爲めに此程歸朝せられたのであるが、女子職業學校に於て獨逸の婦人に就て左の如き講演をせられた、日本婦人として學ぶ可きものが多いやうに思ふから、大意を掲ぐる事とした、校閲を經たるものに非ず文責記者にあり。

△怜悧なる獨逸の小兒

獨逸に於て、私共が他の歐羅巴諸國に比して驚く可き事は小供の怜好な事である、假へば英國の小兒に、「何故二二が四になるか」と云つた處で答は出來ないが、獨逸の小兒は言下に「二二が四といふのは二と云ふ數を二度よせる事である。二といふ數は一と一とをよせた數だから二二が四といふのは一を四回加へる事であつて、四といふ數に間違はない」と答へる。日本は暖いと云へば、「暖いといふのは攝氏の何度位の事ですか」と聞く、迂濶な事を云はうものなら、あべこべやりこめられる。實にどうも獨逸の子供は怜好で、英國の小供などゝは比較にならない、何でも物の道理を窮めなければ承知しない、飽迄も追窮する、實に驚く可き智識慾を有つてゐる。併しどうして斯ういふ風になつてゐるかといふと、實は其背後に母の教育といふ事があるからである。獨逸の小兒の

賢明なるは、とりも直さず獨逸婦人の賢明なるが故である。茲に日本婦人の學ぶ可きものがあらうと思ふ。日本の婦人などは到底獨逸の小兒の質問に答へ得ない位なものであらう。また獨逸の小兒は非常に活潑である、日本の小供の樣に因循ではない、寒中でも何でも、毎朝水泳をやる、實に盛んなものである。獨逸が世界を對手に戰ふ樣な闘士は斯うして作らるゝのである。

△獨逸婦人の社會的事業

世界で最も婦人事業の發達してゐる國は獨逸であらう。婦人會の組織は千八百六十五年ライプチヒに於けるのが始めてであつて、次に千八百八十八年にカウエルといふ伯林の婦人界の有力者が、伯林に大きな婦人會を起し、續いて各種の婦人會が澤山組織されるやうになつた。今日に於ては獨逸一國に二千三百六十餘の婦人會があり、會員の總數五十萬の上に上つてゐる。

これ等の婦人會は、最初の程は宗教の教派によつて區別されて居つたが、段々統一がつかなくなつて、今から二十年前即ち千八百九十四年に、獨逸婦人會組合といふ大きな同盟が締結された。此同盟會はどういふ規約で成立つたかといふと各種の目的を異にする婦人會を集め、例へば經濟、法律、慈善、婦人問題等の要求に對しては、多人數で輿論を喚起し、目的を早く達する便宜の上からで、頗る大仕掛の會である。其三千に近い婦人會の種類は實に複雜で、先づ貴婦人の會、女教師の會、音樂家の會、産婆、看護婦、婦人記者（これ等は獨逸には非常に多數にある）の會、女役人の會、母の會、工女の友の會、白奴賣買防止會、禁酒會、若い娘の働く可く導く會、女權擴張の會、人種改良の會等殆んど際限がない。

其中で婦人の禁酒會は一寸異樣に聞へるかも知れぬが、一體獨逸に於ては、ビールは日本人のお茶を飲む樣に用ひられて居つて、男女の別なく平氣で飲む、だから其結果好からう筈がない、これをどうかして制裁を加へやうといふので婦人の禁酒會が出來たのである。如上の會の活動は、第一は演說會で、婦人が堂々と公開演說する、次には新聞雜誌であるとか或は立派な書物を刊行し、或は公開の圖書館を設けて一般婦人を誘導して居る。

△獨逸の覇は婦人の力にあり

又伯林には婦人同盟組合によつて作られた、婦人職業館があつて、博士號を有つた有力な婦人達が幹事となり、先づ第一は生活難に苦しむ婦人達に適當な職業を與へ、其他博愛慈善の事業、社會改良の事業の爲めに多大の效果を擧げて居る。斯樣に獨逸の婦人界は總てが素ましい程秩序的で組織的で團結力が鞏固であるから、戰時に際しての遺族の救濟事業なども、遺憾なく準備が整つてゐて、男子に後顧の憂なからしめてゐる。否啻に後顧の憂なからしむるのみならず、獨逸の文明、學術、科學工業が世界に覇を稱へ、世界の强國を對手に勇敢なる戰をなしてゐる男子を作つてゐるのも、實は獨逸婦人の家庭に於ける働きに其半を歸さなければならぬ。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

私共では
毎年のクリスマスに
毎年ライオン歯磨!!!

此年はライオン歯磨の
ニツケル鑵入や 外に
子供ハミガキの
ライオン石鹸
の化粧用、浴場用、洗濯用
のどれかを贈りましよう。

東京神田郷原川岸
發賣元 小林富次郎
支舗 大阪・名古屋

各種印刷

丸利印刷所

東京市神田區鎌倉河岸通

電話本局百三十三番

Digitized by Google

Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

雜纂

純潔の變美

廓清會理事　油谷治郎七

左は油谷理事が別項の本會演說會に於て『廓清の要義』と題し試みられた講演中の一部分である、記者は別項の演說會の記を書いてゐる中に、此時の話を思出し、新しく又興味を感じたから其面白かつた一部分を記憶を辿つて書いて見た。

□□□□

倫敦にデロチイチックスと呼ばれた有名な葡萄酒屋がある。これは何も其店が壯麗であるとか、流行るとかいふやうな處から名高いのではない。一場の悲慘な美はしい物語が名高くしたのである。

チックスといふのは葡萄酒屋の若主人であつた。此男は非常なるおしやれで、めかしやとして近所界隈誰知らぬ者もない、そらお洒落チックスが通るといふ位評判の男であつた。其チックスが結婚をするといふ事になつた當日、それこそ一生懸命頭の先から足の果て迄磨き飾つて新婦の來るを待ち、知人を招待して式を行ふ室には山海の珍味を並べ、有頂天になつて居つたが、どうしたものであつたか、大切の花嫁が其結婚の席上急病を發して終に歸らぬ旅に立つて了つた。あはれお洒落チックスは「結婚」の華やかな人生の怡悅の絕頂から「死」といふ人生の悲哀の深淵に迄投込まれて了つた。

チックスは魂が拔けたやうに茫乎した號泣慟哭久しうして奮然立ち上つた彼は結婚の祝杯を擧ぐ可く山海の珍味を並べてある其室の扉を、破れよとばかり閉ぢた。ピンと鍵を下して彼は再び其扉に凭りかゝつて茫乎して居つた。

□□□□

爾來櫛風沐雨四十年、唯の一度鏡に對した事はなく、湯に這入つた事はなく、着た儘の服は破るゝに任せ、髮も髭も延び放題、蓬々として野分の後の荒野のやう。垢に塗れ襤褸は下り、變れば變るもの當年のお洒落チックス、極端から極端に泥塗チックスと綽名せられ、世の毀譽褒貶を馬耳東風と聞き流して、終に六十幾歳で儚なくなつて了つた。

弟の何某が店を繼いだ時に、四十年間も閉ぢられてゐた一室の扉を始めて開いて慄然した。其昔卓子の上に綺麗に並べられた珍味佳肴は杯盤と共に狼藉を極めて鼠の骨や猫の骨、さては蛇の骨で堆くなつてゐる。御馳走を取りに來た鼠が何匹も何匹も幾代か其處で死んだであらう。またそれを取りに來た猫や蛇が幾匹か長い年月の中に骨に化したであらう。悽愴の氣人に迫まる中に、未だ栓を拔かなかつた葡萄酒の幾本かゞ昔を語つてゐた。

□□□□

これと好一對の話が最近に佛蘭西に起つた。

巴里の郊外に一人の年若き美人があつた。彼女は普佛戰爭に從軍してゐる婚約の成立つてゐた未來の良人の、恙なく歸り

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

來らん日を今日か明日かと待つてゐた。雨の朝月の夕彼女は只管神に念じてゐた然るに何事ぞ彼女が心に深くも契つた夫はあはれ普魯西軍の爲めに屍を戰場に曝すに至つたのであつた。彼女の悲歎が何れ程であつたか想像するに難くはなからう。彼女は以來堅く門を閉ぢて、一歩も門外に足を踏み出さなかつた。

花は幾度か咲いた、雪は幾度か降つたけれども彼の美人の姿は誰も見たものがない、はては口善惡ない村人の噂にも上らなくなつた。死んだのか生きてゐるのか、何處へか行つて了つたのか杳として何人も消息を傳へる者がない。

□　□　□　□

斯くして星移り物變る四十年、世は再び戰雲に閉され吹き來る風は血腥くなつた。其村からも幾人かの壯丁が獨逸を伐つ可く干戈を執つて征旅に上る事となつた。すると幾十年の間未だ甞て開かれた事のない彼の美人の家の門が八文字に開かれて、出征せんとする村人を迎へ入れた。見ると當年花の如き佳人は額に幾條かの深い皺が刻まれて居た。それにも拘らず彼女は昔ながらの華美姿、白髪交りの金髪には花髪飾さへ挿して居た。そして一同を歡待する事至れり盡せりで、『どうか最愛の夫の仇敵たる獨軍を粉碎して下さい』と熱心に頼むのであつた。斯くして征途に就く人ある毎に毎日〳〵迎へ入れて非常なる歡待をして居るといふ事が、近着の新聞に出て居つた。

□洲崎遊廓暴行事件

救世軍の伊藤大尉及二娼妓が、洲崎遊廓で一大暴行に逢つた事件(本誌九月號參照)は愈〻去る三日東京區裁判所に於て第一回の公判が開廷になつた。遊廓側の爲めに鵜澤總明博士、高木益太郎、武富濟の三氏が辯護の任に當り、救世軍の方には附帶訴訟に對して本會の西村勘之助及大塲茂馬博士が辯護の勞を執らるゝ事になり傍聽席は遊廓連で身動きもならぬ滿員、中には吉原の重立つた顏も同臭の關係から大分來て居た。中野樓主小川佐太郎、黑坂樓主黑坂鶴四郎平野樓主平野幸三郎、梶田樓主梶田新太郎の四人は何れも毆打せずと答へ、藝妓口入業鈴木佐七、帳場鵜飼新太は其幾部を承認し、廓内の顏役武部の子分なる鈴木常太郎一人にて罪を背負はんと努て閉廷。次回は二十二日午後一時より證人四人と被害者三名を召喚、開廷の筈。詳細は次號に報導すべし。

□　□　□　□

これは實に愛の極致で、純潔の雙美として語り傳ふ可きものではあるまいか。我々は純潔といふ事は尼僧のやうな生活獨身主義の生活にあるとは信ずる事が出來ない、此點に於て中世基督教は基督の精神を誤つて居る、使徒ポーロが人間の夫婦生活を以て止むを得ざるものとして許すとしたるは大なる謬見である、現に基督は自ら結婚をお祝ひなされて居る。若し生殖生活を以て純潔を汚すとするならば、人類は忽ち滅亡しなければならぬ。純潔といふ事は仇し男乃至仇し女に心を惑はさぬ事でなくてはならぬ。此點に於てデロチイチックスと、巴里郊外の一婦人とは純潔の美德を遺憾なく實現して居るやうに思ふ、二人とも未だ婚約をしたといふ丈にしか過ぎないが、心の裡深く既に夫婦と定めた以上は、最早仇し男仇し女に心を移す事は出來なかつたのである。何といふ美しい物語であらうか。

花の日會は社會に如何なる影響を與ふる乎

鳩山春子

花の日會を催しますにつき、慈善運動の上乘なる方法として。盛んなる世の同情を得つゝあるは、新聞紙の報ずる通りでございますが、いまだこれが社會風教の上に如何なる影響を與ふるものであるかといふ事に就ては、殆んど論議せられて居りません。私は發起者の一人として少しく此點を明にして置き度いと思ひます。

先づ順序と致しまして花の日とは如何なる事をなすものであるかを簡單に申上ぐれば、英吉利獨逸其他歐洲諸國に於て行はれる方法を採用したるものでありまして、先づ赤い菊の花五六十萬個を作りこれを貴婦人達が街頭に立つて一個二錢以上に賣り、其賣上げの全部を慈善事業に寄附するといふ仕組でございます。

赤い菊の花を選みましたのは、櫻を以て日本男子を象徴したものとすれば、差當り菊は日本女性を象徴したものと存じます。外國に於てダアリアは見事に發達して居りますが、未だ日本の菊の淸艶なる風姿、馥郁たる雅香を有するに如く可くもありません。且つや古來日本女性の貞烈を霜におごる寒菊のそれにも擬らへてありまして、赤色は眞心を現はすものですから、赤い菊は日本女性の赤誠を象徴するものとして最も適當と考へた次第で御座ゐます。

日は未だ確定致しませんが多分十八日との事で御座います。それは靑島を攻陷した我忠烈なる軍隊の凱旋當日に執行するのでありまして、市民は此菊花を胸に飾つて歡迎祝賀の誠意を表する事にしたいのと、同時に此歡樂の裡面には、我等の爲めに草むす屍、水積く屍となつた幾多の尊き犧牲のある事を偲ばしめんが爲めでもあります。と申しますのは今回の收入はこれを靑島に於ける戰死者中の最も氣の毒な境遇にある遺族に對して分配して頂く筈になつてゐるからであります。

□□□□

然らば何故これを慈善運動の上乘なるものとするかと申しますに、簡單で神聖で公正であるからで御座います。光明の一面に暗黑があるといふ事は如何なる場合にもあるやうに思はれます。正義自由の破裂たる佛蘭西革命に於ても、實は幾多の慘劇が演ぜられ「自由の名よ、汝によりて如何に多くの罪惡が成されるか」と叫ばしめた程で、慈善事業のやうな結構な仕事にも多少の弊害が伴はれ、或は慈善を强いられ餘裕のないものが厭々乍ら醵金をして慈善の本旨に悖るとか、或は純益は費用の二割にもならぬ事さへあるとか、或は通常の慈善事業の義捐金なるものは、其の集める人達の妻子を養ふ料となり、半分は消えて了ふ。或は慈善會の總會などのお辨當は高價で粗惡に定まつてゐる。など批評も多いが、此等の

點に於て花の日會は餘程理想的でありま
す。第一朝から夕迄の殆ど半日で賣り終
へるのですから時間が僅少である。第二
街頭に少時間立つのと花を作る丈の事で
すから方法が頗る簡單である。第三材料
が甚しく少額でよい。第四勞力は恐く
寄附であるから手數料なるものが全然な
く、其全部を目的の爲めに使用する事が
出來る。第五其金の取扱方が神聖であ
り分配の方法が公正である。何故神聖で
公正かと云へば、英國邊りでは、皇后陛
下に即時其金の全部を獻ぐる、そして皇
后陛下より適當に慈善事業に最もよき方
法に依つて御分ちになるといふ極めて神
聖な方法を取つてゐる。ヴイクトリア陛
下が崩御遊ばした御大喪中に花の日會の
行はれた時の如きは、皇后陛下御自身に
市内を御巡視になつた程でしたと聞きま
す。日本に於ては最初の試みの事ですか
ら、すぐに皇后陛下にお願する事は見合
せましたが、將來はやはり左樣な事にな
るでござゐませう。今回は極めて嚴正な
方法で材料費だけを引去り即時遺族等に
頒つ筈ですが、次回からは孤兒院感化院
其他の博愛慈善の事業に、寄附する運びに
至るであらうと存じます。

□ □ □ □

以上の如く慈善運動としては、今日の
處先づ上乘の方法と信ずるのでありますが、社會的の影響に就ても其効果は一に
して足らない。先づ

第一貴婦人連の慈善心を喚起する。貴
婦人といふものは、富貴の生活に馴れ、
自分自身が何等社會の福祉の爲めに盡し
たでもないのに、尊敬を甘受し幸福を浪
費して、驕慢となり貧者を侮蔑するに至
るものでござゐます。さうした境遇にあ
る婦人達が世の弱者の爲めに半日を犧牲
とするといふ事は、慈善心を喚起し平生
の態度に一轉機を與ふるものであります

第二貴婦人の階級思想を打破し平民主
義ならしめる。驕慢となり勝の貴婦人が
花を買つて呉れる人は車夫であらうとも
屑屋であらうとも『有り難う』と腰を屈
めて禮をいふといふ事は、貴婦人にとつ
ては誠によい訓練である。花を買つて呉
れる人に對する態度は、大臣大將たりと
も馬丁小僧たりとも一切平等一視同仁で
あらねばならぬ。これ實に貴婦人をして
平民主義ならしめ、階級思想を打破する
一助たるなきを保しないでございませう

第三虛榮心を撲滅する。貴婦人は自分
の接する程の人から、お世辭をふり撒かれ、媚てられてばかりゐるので、虛榮心
のみ増長するものでござゐます。然るに
半日を路傍に立つて、平生卑しみ見下げ
た人達に頭を下げて有り難ふ、といふの
は、彼等の虛榮心と背馳するものである
中には『其麼な卑しき眞似は厭です』と
いふ人がある位ですが、それを「爲す業
は卑しくとも其心は無冠の王者たる」事
に思ひ及び、毀譽褒貶に囚はれず自己の
信ずる處に向つて邁往する思想を養ふ一
助となり、虛榮心を撲滅して、實榮心を
涵養する一端にもなりませう。

□ □ □ □

第四快樂の價値を知り苦痛に對する同
情同感の念を養ふ。寝たい時に眠り、遊
びたい時に遊び、毎日遊蕩三昧の身が、
暖い爐邊のソッファを離れて、路頭の
寒風に身を晒し、平生見下げて居る人達
に頭を下げて同情を仰ぐといふ事は、貴

婦人に取つては想像以上に大なる困難苦痛である。けれども實は此困難なるものがあつて、始めて快樂の眞價といふものは味はれる、即ち貴婦人が半日の苦痛を味ふといふ事は自己の快樂に値づけ光輝を與へると共に、他人の苦痛に對して同情同感の念を有せしめる經驗をなさしむるのである。私自身の經驗から申しましても、苦しかつた時代は皆私の爲めになつて居るし、愉快であつた時代は皆今日の私を禍して居ります。私が學生時代には學制改革があつたり、學校が止めになつたりして色々な苦痛を嘗めましたが、今日から思へば非常に利益になつてゐますし、級を飛び越したり先生に褒められたりしたのは今日から見ると却ッて虚榮心を増長する基になつたり害にこそなつてをれ益にはなつてゐません。得意の時代は人を誤り、失意の時代は人を鍛練するといふ事は確に事實で、苦痛がないとか、仕合せとかいふ事は決して威張るべき事ではない「人生は我苦めり」と云ひ得る事なくては値はないと存じます

第五精神の鍛練になる、以上述べた處を綜合すれば即ち精神の鍛練になるのでありますから、最早本項の説明を必要としない譯でありますが、序に一言して置きたいのは、一等國民の妻として母として平時精神の鍛練といふ事を閑却して居つたならば、一旦緩急あつた時に忽ちにして土崩瓦解するを免れない、獨逸や白耳義や佛蘭西の婦人のやうに貴婦人であつても男子の代りになつて立派に留守番をすることの必要なる運命に何時逢着しないとも限りませぬ。さうした有事の日に處して、干戈を執つて征旅に上る男子を後顧の憂なからしむる爲めには慰問袋位では濟まされない覺悟がなければならぬ。此點からも精神の鍛練を怠つてならぬ事を凱旋當日の運動として特に一言して置きます。「經驗は苛酷なる教師也」といふ諺があるが、私共は此花の日の運動が、貴婦人の修養の上に偉効があり、延いて此風潮が多少とも一般上流社會に及ぶべき事を確信するものであります。

□　□　□　□

以上は主として花を賣る方の側から申述べましたが、翻つて國民全體の立場から之を云へば、慈善は多くの場合報酬を得る事がないが、此場合は相當と迄は行かなくとも、子供の玩具となる程のもの即ち慈善の領收證とも云ふ位のものを得るので、其上に慈善を他に施し得るといふ利益があります。更に金高が僅に二錢であるから慈善がし易い、何人にも慈善といふ善行が普遍的に且つ輕易に行はれる。最後に最も大切な事は、此花の日に滿都の老弱が一齊に赤い菊花に胸を飾つて、其花を見る毎に慈善の事を反射的に聯想する結果、自然に國民の慈善心を鼓吹する上に絶大なる効果があります。以上の樣な理由によつて、歐羅巴に於て大々的に成功したる此運動が、日本に於ても大々的に成功するやう、皆樣の御助力を切に願つて已まない次第でございます。(文責在記者)

會費滯納者に

會費滯納の向は年末の事故此際至急爲替、切手、又は左の振替口座により御拂込相成度候

振替東京二七〇七二番

廓淸會本部

寄書

果して熱し易く冷め易き乎

水津千雲

廓清を要すべき條件が現代の社會に澤山あることは常に吾人の主張であるが、今又茲に根本から廓清して貰ひたい改めて貰ひたい一つの思想が、有識者の中に横つて居るのを掃除したいと思ふのである。

それは何であるかといふと、先年乃木將軍が殉死せられた時のことである。自分は當時の職務上今の内閣總理大臣大隈伯爵を始めとして、天下の大將軍と呼ばれた陸軍海軍の名士に就て、乃木大將殉死に就きての感想を聞かんがために一々訪問したのである。當時何れの將軍何れの大家に接して見ても『乃木の死は偉いものだ』といふことに就ては皆一樣で、自分の接した紳士方には先づ富本氏のやうなことをいふ人は一人もなかつたけれど、二言目三言目には乃木が死んで日本人は當分は偉いの何んのと騒いで居るが、熱し易く冷め易い國民性だから、左程

に感動が永久に響くまいといふことであつた。果して日本國民性は熱し易く冷め易いであらうか、自分はこの言を聞く毎に淺間しく感じたのである。日本帝國を代表すべき、諸外國より最も注視せられ信用されて居る日本の代表的人物の口から、日本人の國民性は熱し易く冷め易いといふことを遠慮なく發表されるに於ては、それが事實とすれば吾々日本人の缺點である。

言ふ其人も亦其仲間入をしなくてはならぬ、是れな諸外國の人から見たら何うであらう、日本の代表的人物が斯くいふからには、日本人といふ奴は輕佻浮靡な國民性だと直ちに認了されるのである。果して日本民族性は斯樣な熱し易く冷め易いといふやうな、思慮の足りない國民性を有して居るのでせうか自分はそれからこの國民性に就いて聊か考へたが、如何に惡く解釋しても日本人は左樣な國民性は更にないことを確信したのである。故に今後日本の代表的人物は決して斯樣な輕佻な言葉を矢鱈に口外して貰ひたくない、直に廓濟がして貰ひたい。併し事實は日本人自身が皆熱し易く冷め易い民だといふことをいふて居るのは度々聞くことだが、これはお互に缺點なら竊に相戒めて、妄りに言はないがよい。

だが實際考究して見るとそんな性狀は更にないのであるから、自ら自分の價値を下げるやうなことは言はないやうに愼んで貰ひたいのである。いでや熱し易く冷め易くないといふことを次に述べて見やうと思ふ。

□□□□

先づ熱し易く冷め易いといつたのは何んな心理狀態を見て誤解したかといふと日清或は日露の戰役などの場合に、擧國一致して國家のために各其爲すべき任務に義務職責に向つて熱して働いたのが、戰後になりて當時の苦心や慘狀は更に考へて居ないやうに一般國民が奢侈に流れたなどいふことからと、戰爭當時は癈兵や軍人遺族の救護に勉めたけれど、戰後は如何に國民に向つて絶叫しても戰爭當時ほど右の癈兵や遺族に同情をしないなどいふ點から、色々と言ひ傳へられ聞き傳へられて、甲も乙も熱し易くて冷め易いなどゝいふやうになつたものゝやうに思ふ。

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

けれど果して日本國民は熱し易くて冷め易いのなら、今日迄この國家の維持は到底出來ない筈である、尤も一寸日國民の心理狀態に就いて皮相の觀察をすると、形の上には多少熱し易いやうな冷め易いやうな風に見えもするが、家際に於て熱したものが冷めてしまへば、再び熱するまでには中々時間を要するのである、尤も金屬が熱し易くて冷め易いのは、熱さへ與へれば何時でも熱するから、冷め易いからとて必要な場合には何んなにでも熱するが、國民性の熱し易い冷め易いといふのは或はこの金屬が熱を引くやうなことからいひ出したものかもしれない。

けれどもしそれならば何も悲觀する必要はない、悲觀する處を見るゝ冷めなら熱を與へるに手間取る意味を含んで居る、所が日本國民性の熱して冷めるやうに見ゆるのは、決して冷めたのではない、不必要な熱を働かさずに表はさずに止めて居るので、丁度電車が停つて居ても電流は常に其電車の或る點までは流れて居るのと同じで、必要な場合に其鈕なり接續器を働かせば前通り元通りの熱が湧いて來る、電氣が流れて電車が働くのと同樣である。蒸氣ポンプの湯は何時も沸えて居るけれども、其蒸氣の働くべき力を抑へて居るに止まつて、何時でも其蒸氣ま器械全體に働いて水は噴出するのである。

試に十年目に遭つた知己があつたとすれば、其離れて居た時間は中々長いけれども、十年前に交際をして居た時分の熱と同樣に、少しも冷めずに十年後にも交際が出來るではないか、冷めた情なら知巳を知己でおく譯には行かぬものである、冷めないから十年前も十年後も、寧ろ十年後の方が親しくなつて行くやうな感があるのである、離るれば疎くなるといふ諺があるが、離れるために直接に間接に必要がないときは其間に通つて居る情熱は一時鈕を除いて熱を他の有用の方面に働かすのである。故に一方より見れば疎くなつたやうに見えるので、この諺は又前の熱し易い冷め易いの如く其形の上を見ていふたものである。

□□□□

日本民族の心理狀態を解剖して見ると智の發達と情の發達と意識の發達が昔から順序よく發達して來て居るやうに思ふ其の原因は何處に在るか、先づ茲に述べることは止めとして、擧國一致を要するやうな場合は其情の働き具合が熱狂して居る、死すとも恐れない日本武士が、海行かば水づく屍といつたのはこの情の極致であるが、斯樣な場合の心理狀態に在つても事が靜まつてしまへば殆んど其の熱は全く冷めたやうな狀態で、後始末なり將來なりに必要な計畫や智識の修得進歩の一點張で決して他を顧みない。故に我國の文明の發達は比較的に偏頗がない平和の時代だからとて我國民精神の根底には變事を期して居るから、物質的な方面ばかりでなく相當に精神的方面にも發達をなして來て居る。理智許りが發達した西洋文明と比較したら確かに文明の進歩速力は或は遲れて發達するか知らないが、變則な進歩はしない。

時に情の發達を要する場合は熱狂するのである、鈕を取退けたら意識はその方面許りに活動す。吾人人間は、個人としても知情意が相併立して其權衡を保つて發達して行かなければ眞の文明は期せられぬのである。昨日まで惡むべき敵とした國々へでも、直ちに平和が約されたら心の底から親切に柔和に敵國に當るのである。これは其敵愾心の情が冷めたのかといへば決して冷めたのではない、不必要だから必要な感情を表はす鈕が押されるので、情の働くべき熱度は敵愾心の熱と同じやうな度合で起るのである。親しき愛すべき夫が遠く戰場に臨むときに、淚を呑んで家を守る婦人が、留守中は其感情を抑へて己れの理性の働くまゝに家政や教育を誤らないのを見て、彼女は情が冷めて夫の戰場に在るを思つて居ないといふ人があらうか、要するに我國民性は決して熱し易く冷め易い性狀を有して居ないことは、こ

れ丈でも證據立てられるのである。實に日本國民は意識が智情の働きの何れにも圓滑に働いて、よく感情の轉換が出來る性狀を有して居るものであると思はれる。

以上我日本が將來の如く世界的でない時代はよいとしても、今日の場合徒らに熱し易く冷め易いなどと公言して自ら憚らない代表的人物は少しく顧みて貰ひたい。日本の外交が振はないとか何とかいふ前に、自ら日本民族の缺點や皮相の觀察を以て諸外國に誤解を與へないやうにして於いて貰ひたいと思ふ。

單獨娼妓を救はんとして破れたる懺悔

T M 生

私は先頃まで去る工場に勤めて居りました。一日、同業の徒弟で△と言ふ十九になる男が參りました。すると私の親方は△を捉へて、私に其身の上話しを聞かせろと促しました。△は早速承知して私に身の上話して聞かせました。

△の父は因州の產で元雅樂師であつたさうです。後上京して、下谷警察の巡査になつたさうです。所が間も無く妻が死にましたので、三人の子供を巡査では養育する事が出來ぬので辭職しまして、道具屋になつたさうです。其時は△に住むで居つたのです。其中に人が世話して吳れたので後妻を迎へましたが後妻は三人の子を非常に虐めますので追ひ出して了つたさうです。つゞく不幸に益々零落したのです然るに△の兄は亦放蕩者で早く家を飛び出して旅役者になつたさうです。姉は亦氣の毒にも△の▲▲樓に娼妓に賣られて行つてしまつた。

△の父は其麼斯麼が元となつて遂に發狂しました止を得ず青山の腦病院へ入れましたさうですが遂に病院で狂死したさうです。△は人々の世話で今の家に小僧となつたのです。姉は遂に父の死目にも逢はなかつたさうです。

是を話す△の目は淚が一杯でした。私は思はず貰ひ泣きして、以後姉弟二人の爲に相談相手になることを盟つて△を主人へ歸しました。で、取敢ず有合の本を姉に送つて慰問したのでした。其の返事は斯うでした

御手紙にて申上候（中略）早速御返事差上べきなれど病氣のため遂々のび〳〵に相成りし次第、實に此の病氣には困り入り候。私もあなた樣より御本を再三送つて戴きまことに嬉しく思つて居りましたが、あなた樣の所を知らぬ故に御返事も差上ず（中略）又△が種々と御世話になるに私まで御心配下され御禮の申上ようも御座いません。私は斯樣のつとめをして居れど心までは變らず、父母のなきのちは△と二人の姉弟にて心細く候。しかしさらい年の十二月は満期でも有ますし△を立派な人間にさせたいばかりに、いろ〳〵苦勞して居るのです。（中略）何分此先も△をねがひます何れくわしきことは後よりの手紙に申上候。

辛い己の身の上より弟なる△の事のみを案じて居る。で、彼は廢業後宿る可き家が無いのであつた。△が立派になれば行く家が無いのであつた。夫れを讀むと私は怎麼人間に會つて見たくなつたのです。自白します。私は本年二月十五日の夜初めて△の姉を▲▲樓に訪ふたのです。で、遂に彼を生涯見てやる事にしたのです。其後五回行きました。で、彼の言ふには尚ほ二年の年期があるが、主人は彼の病身なるが故に本年十二月廿六日で證文を卷いてやると言つたと言ふのです。私は破格な事ですが彼の病身である故に、或はさうかと半信半疑で居りました。眞實彼は病身なのです。友人は私の立身の妨げになるからと種々と私に申しましたが、翌日死なれても好い覺悟で反けて居りました。△も自分が子僧の身で小遣を節して貯金した金が十二圓程あつたのです。それを主人に提供して後は月賦にでもして貰はうかと申すのです。が、それが容れられぬに定つてますから止めました。で、共に稼いで一日も早く出してやらうと約して私も働らいて居たのです。すると或日彼から檢査の途中俥が覆つて落ちた。それが爲に腕を損じたから、金を少し送つてくれと申して來ました。早速△に持たせてやりました。そして△は其金を渡す時に私の德を說いたのださうです。所が彼は△に向つて男から女が金を取るのは當り前であると言つたさうです。次に△がお前は事實

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

早く出たいと思ふか、そして十二月に出ると言ふ事は事實かと言つたさうです。すると彼は嘘だと答えたさうです。それで△は憤慨して大立廻りをして歸つて來たさうです。そして私に姉は到底眞人間にならないから手を退いてくれと申すのです。私も呆れて、早速絶交狀を送つてやりましたが夫れは改心させるためにです。其後辯解しても來、詫びても來ましたが、私は其後參りません。で、元々救ふてやるのが目的であつたので、妻にする氣は無かつたのですから、時々雜誌位送つてやつて居りました。で、其中に彼が改心したら又何とかするつもりでしたが遂に只の女でした。私は唯好い經驗を得たのです。夫れほどの女も久しく彼の社會に居つたら、遂に自己の先祖の事も何も忘れて了ふのであると、言ふ事を慥めたのです。私は、彼は救ひ出して殘る半生で彼の孝行の德を明らかになさしめ、且つ若き時代の勞をねぎらつてやるつもりであつたのです。然るに彼が現在の境遇を辛いと言ふのは表面で心裏に入つて見ると、人妻となつての眞面目な生活より彼の方が好いのである。で、私は△の言ふがまゝ今は身を退いて全く純潔の生活に入りました。

然るに此頃人から聞けば△は旺に吉原へ行くと云ふではありませんか、數ケ月前に身の上を話した時の彼は衷心から姉を救ひ出さんことをのみ希ふて居たのです。が、今は姉を更に思はないのです。姉などは何うなるとも構はぬと言つて居るのです。私は、見す見す二人の人間を死刑場に葬つて了ふのです。殘念だが微力の私の何と仕樣もないのです詰り私の德の足らないのだと思ふのです。で、新聞の三面に伊藤大尉の奮闘振りを見て敬服して居るのです。

で、彼の心の腐敗して居る事も無論ですが要するに貸座敷があるから親は娘を賣たのです。親の膝下に育つたなら彼の如くはならない。普通の女であつたのです。永く彼の社會に居たのだから、今の様になつたのである。のみならず弟までも犧牲になつたのです。是等の事實を見るにつけても公娼は是非撲滅せねばならないと思ひます。

待たるゝ奴隷制度陷落の日

光 鹽 生

▲洲崎醜類暴行事件以來に於ける本會幹部の目醒しき大活動は誠に痛快の極に候、吾等は忠義無比なる吾が陸海將士が青島の陷落を期せずんば止まぬ如くに帝國の一大恥辱たる彼の純奴隷制度の陷落を期する爲めには死力を盡して奮闘致したき者に候。

▲然るに吾が栃木縣に於ては人道の賊貸座敷營業者にして縣會議員たる者あり、郡會議員もあり、又市町村會議員等の名譽職にある者十數名の多きにあり、一般世人も敢て之を怪ますして選擧しつゝあるが如き實に言語に絶する次第に有之候。それに從て私娼の發展も中々馬鹿にならず、而して是等は何れも警察とは密接なる關係を保ちつゝあるが如き他縣に類なく候。

▲又當地に於ては周旋業雇人口入業者等澤山あれ共是等は主として娼妓酌婦誘拐專門の由にて彼等は通常人の想像も及ばぬ奸手段を用ゐつゝあり、そして月に百名内外の無智の可憐の少女が惡魔の手に移されつつ之有り候。小生は業務の餘暇を利用し斯る可憐の少女の父兄に對して及ばず乍ら警戒に努力致し居候。

▲或時の如きは其父親に對し大に其心得違を論じたるに彼は「でも親方、近所の某の娘さんなどは身賣なした故に今では立派な奥様になつて、親兄弟まで樂な生活をして居りますよ」と申され候。あゝ何んたそして何所までも憐む可き彼等に候はずや。

▲乍併斯如き實例は彼等醜業婦志望者の運命が千人中の一人程もあるにあらず、其多くは生きながらにして地獄の底に沈み行く者に候、あゝ彼等の無智なる眞に悲しむ可し、それに就ても斯る可憐の下層民も生血を啜る醜類退治こそは目下の急務にて候。

會員諸君に告ぐ

本年一月號及二月號（第四卷第一號及第二號）を所持せらるゝ諸君は本部に於て入用有之候に付、至急御惠贈被下間敷哉。一冊五錢づゝの割合にて頂戴致度切望仕候。

會員諸君の投書寄稿を歡迎す。其他本會に對する諸般の御希望發展の方法等を遠慮なく御申越しを乞ふ。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

須らく自覺せる民論を聞け

△鎭釜町政の紊亂廓清に就て

鈴木榮之進

鎭釜町の運命を左右し全町の休戚を負擔する者は第一町長にあらずして誰れぞ、町長たるもの公明正大なる擧動と眞執着實なる行爲とを以て全町民に範を示さざるべからず。

然るに何事ぞ動もすれば巧言令色之れ事とし無責任の言行を敢し恬として之を顧みざるは實に慷慨悲憤止む能はざる處なり、元々彼等の身に光澤を添ゆる所以の者は即ち名譽に伴ふべき責任を盡してこそ町本位の誠意ありと認め得べき也。今や公議輿論を以て成立せし鎭釜町民會は町當局の情弊を匡正し、公道を進め町費の使途を重んじ自治の完成を期すると共に、年來の熱望たる築港を期待して町民一般の福利を謀らん爲め茲に一致協力時勢の要求に對する町民の公議輿論の遂行を期待せんとす。鎭釜町の發達と生命とを期待する吾々町民は先つ眼を開いて鎭釜の地理地勢を見よ、東に遠く海路を北海に控へ西は遠く鐵路の東都を控へ東西より來る海産物其他山林原野の物資集散地として東都以北に比類なしと目するに足るとしたならば、吾が鎭釜が理想的築港の完成したる曉きには内外の船舶百貨を載せて港頭に輻輳するもの朝に千艘を致し、夕に千艘を繋ぎ帆檣林立汽笛喨々一刻の寶貴に黄金を爭ふの盛榮を極むるなしとせず、苟くも前途多忙の吾が鎭釜をして形式皮相なのみ裝つて町是と標榜する町當局を信頼し將來の旺盛を期待して安堵し得べきものなるや、町政濟美の誠意なき町當局に自治の事務を處理せしむるの町民一般の不利なるとを自覺せし以上此種の當局を信任し得るものなるや。町が改革者たる天職を負ふ達識器能の士に俟つべきことあるは、單に町民の財政上の爲めのみならず、獨り町が名譽の爲めのみならず、獨り宮城縣の利益に出づるのみならず、實に東北發展公共の爲めに吾々鎭釜町民は茲に町民會なるものを組織して名實紊亂射利相競ふ風潮を驅逐し町治の廓清を斷行せんとするの止むなき今日に至りたり。

町有地を浸蝕して貸家を建設せしものは誰れぞ、全町民を盲目的視し町有地を侵し、貸家を築造せし等の行爲は恰も傍若無人の侵略的不法行爲なりとす。果して此等の行爲ありとするに於ては町長たるもの其職責上町を代表し町の施政を總理する理事機關として就中配下の不眞行爲なりとするならば對岸の火災視する能はざるべし、然るを何ぞや之れ公職にある町長の態度として放任し得べきものなるや、即ち弊害流布の源を爲す是等の違犯行爲に對しては毫も假借する所なく斷止且つ公平に其態度を明にして配下の不眞行爲を監督せざるべからず、今や町當局は名實紊亂射利相競ふの風日を追ふて益々甚しとす、而して此等の諸弊を防遏するの途一に町長監督方法の宜敷を得ざる結果に外ならず、自己亦た疚しき點多々ありとせんか庶政の振刷改革すべきもの一にして足らざるに於ては、町民が選良の町會議員に俟つべきものあるは實に今日より急なるはなし、彼れ不眞行爲や公德心を沒却し町民を弄蔑して町有地を浸蝕しあるは町長助役等疾くに知るのみならず、曾て町民間の一問題となるや町長は自己黨與の非違に對し之れが彌縫策を講じ、先づ不眞行爲をして形式的に退職せしむゝ體を裝ひ其責任を負はしめたるまでは可とすべきも、町長たるもの一面ににに不眞行爲者をして町會議員の某々等へ謝罪せしむることを講ぜしめ、某日某樓に助役始め會見し助役は町間の某々等へ電話を以て彼れ謝罪云々申出に謝し許否を問合せ來り、結局單純なる謝罪名目の下に助役始め職員某等と非違者と會飲し該酒肴代負擔は非違者に歸せしめたりと。

而して形式的退職は再び公務に就くことゝはなりぬ吁事態奇怪の極に非ずや、事實は炳乎として存在せるを如何せん事苟くも輕々に附し去るの一大弊害は無事町民の容喙し能はざるものなるや、吾々町民をして忌憚なく言はしむれば事實を事實として如何にして是等弊害を除去し且つ廓清する乎を吟味せざる可らず。

町長の施政計劃宜きを得確實公正にして賞罰を明かに實行するに於ては町民は何ぞ反感を唱へざるべしと雖ども、自他公職を利用せし黨與の不眞行爲に對する措處と疚しき弊害を其間に伏在せしむるに於ては、いかに外面的泰平を裝ふとも心ある町民は其半面に暗澹たる不平の氣を含めるを知る、而して此の不平の氣は何日之を發するかを知るに由なしとせず、嗚呼物や平を得ずんば鳴る而して其非は自ら表るゝなり、名利の徒は知るや否な全町民の公議輿論を尊重し町政濟美を絶叫せる町民會は遂に公憤して起てり、若し夫れ如斯町政の惡事をして町民の血と汗とを食む獸歯や、町閥と野合して確固公正を枉ぐるが如きあらば、町民會は倍々強硬の態度を固持し飽まで、町政廓清の爲め正々堂々町當局に反省を促さゝる可からず。

——別項緊報欄鎭釜町民會の蹶起參照——

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

會報

金鼓鼕々たる我軍容を見よ

教會巡廻演説會

十一月に入つて豫而計劃して居つた巡廻運動を始めた。最初は

△芝教會に於て

十一月七日夜開會した。第一席伊藤秀吉氏は廓清會の過去現在を説いて、恰も當夜は吉原の酉の市であつたから、之に言及し。第二席益富政助氏は公娼廢止は取締廢止に非ずとて、世人の惑ひを明快に解き。第三席伊藤富士雄(救世軍大尉)氏は、娼妓救濟の實狀を述べて喝采を拍し、第四席石田友治氏(第三帝國主事)は民本主義の立場より公娼問題を論難し、最後に油谷治郎七氏は「廓清ノ要義」と題し、純潔の尊むべきを根本的に述べ別項の如き趣味ある話をされて十時半閉會。

△酉の市に於ける廢業の勸め

歸路石田友治氏と記者外二名一行四人電車中にて酉の市に進擊して、廢業の勸めを配付せん事を議決し、十二時近く吉原遊廓に到着。大門前に於て數百枚の廢業案内を雲霞の如く入り來る嫖客の中より登樓しさうな人を選んで配り、更に廓内に進んで格子外より直接娼妓の手に渡した。此時は既に夜漸く深く一時にもなる頃であつた爲め、遊客の數も減し、客を待つ娼妓の數も半分位になつて居たので、妓夫の眼を盜んで娼妓に手渡しするといふ事は、頗る危險な業であつたが、石田氏は最も大膽に多數の娼妓に格子先から手渡しされ。午前二時に及んで歸つた。

△麻布幼稚園に於て

十四日夜は、麻布青年會の主催で、廓清演説會開會、三野繁治氏、伊藤富士雄氏、伊藤秀吉氏、益富政助氏、向軍治氏出演(詳細は別項麻布青年會の活動參照)滿場立錐の餘地なき盛會であつた。

△淺草教會に於て

二十三日夜は、吉原遊廓の程近く、殊には四千の賣婬婦を有する十二階下の側なる芝崎町の淺草教會に開催。伊藤秀吉氏は、何故我等は公娼の廢止を主張するかを、人道上と、本質上と、社會政策の三點より論じ。伊藤富士雄氏は自由廢業に就て世人の誤解を辯じ、娼妓の悲慘なる境遇を說いて同情に訴へ。最後に松宮彌平氏は風敎の作振は微細なる點より始まる事を例證して、世人の反省を促し喝采の裡に閉會。

△北裏教會に於て

二十八日夜は、新宿遊廓のすぐ裏手なる北裏教會にて開催。第一席伊藤秀吉氏は存娼論者に告ぐと題して存娼論を駁し。伊藤富士雄氏は、洲崎遊廓の暴行より說き起し、遊廓制度の眞相を赤裸々に告げ。益富政助氏は廓清會とは何ぞやとて各方面より社會廓清の必要を詳論して閉會。何れも可なりの來會者ありて、多大の感動を與へ得た事を喜ぶ。

空前の大演説會

△神田青年會館に於て

十二月に入りて五日正午より大演説會を神田青年會館に開いた。入場料五錢を徵した上畫の集會であり、天漸く寒く且つ政治季節に入つて、夕方から同所に

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

増師問題で國民大會が開かれるし、幾つも來會者の少かる可き理由があるので、非常に氣遣はれたが、驚く可し定刻過ぐる頃には忽ち滿員となり、午後二時には止むなく滿員札を掲げて入場を謝絶するに至つたが、それでも來會者引もきらず續々として雲集し來り、強て入場を哀願する者、或は窓外に立ちて僅に其謦咳に接せんとする者數知れず、空しく立歸りたる者に至りては無慮二百名に及び、啻に此種の會合に於て空前の盛會であつたのみならず、大正政變當時の政談演説會に見るが如き盛況を呈し、都新聞は「一場内にはこれこそ立錐の地もないほど聽衆が溢れ」と云ひ、東京日々は「此日滿員大入で中には遊廓側より來たらしい醉漢もあつたが、却つて演説に動かされた」と云ひ更に「婦人が非常に多かつた、又二階には梅毒で鼻のなくなつた人が二人來てゐた、千五六百の聽衆のうちで此二人程痛切に廢娼の必要を感じた者はあるまい」と云つてゐるが、千五六百は事實に於て此會場には這入れぬ、入場料を受取つた者が八百五十名で、會員の來會者二百名招待者及入場料を受取り損なつた人を合せて五十名とすれば總計千百名はまづ動かぬ。

辯士は第一席益富政助氏開會の辭を述べ、廓清會の趣旨を説き、ウイッテ伯の言を引きて露國は醉拂ひ税を廢止した、日本は淫賣税を廢せざる可らずと論じ。文學博士ドクトル富士川游氏は『醫學上より觀たる絶娼論』と題し、賣淫婦の發生より現今の檢梅制度が醫學上無效なる事を説き、賣淫の存在は男女を驅つて第三性に變ずと述べ、更に生物學上醫學上より絶娼の可能を確信すと論斷し、極めて有益なる演説であつたから、翌日の各新聞は擧つて其慷慨を載せた。(本誌一月號には詳細其筆記が出る筈)第三席婦人矯風會副會頭本多貞子女史登壇、別項の如き演説をなし多大の感動を與へた。

此際吾人が特に本多氏に感謝したいのは、今日の婦人界にあつて此大問題の爲めに容易に吾人と共に演壇に立つて呉れる人のない事である。本問題の如きは男子の問題といふよりは、より多く女子の問題であるにも拘らす、婦人の辯士を得んが爲めにいつも何れ程骨を折り、如何に憤慨するか知れない、若い意味にも悪い意味にも今日の新しい女と呼ばれて、婦人の人格を論じ權利を主張する人々が、婦人問題の最も重要なる此問題に思ひ及ばないといふ事は如何にも殘念な事と思ふ。

第四席に山室軍平氏は、得意の熱辯を以て擒縱活殺自在に聽衆を感奮せしめて小憩、會員の募集をなし、正會員四十一名、賛助員一名を得。阿部磯雄氏登壇例の下水論を以て極めて興味深く、而も理路井然明白に解釋し、山室氏の情熱と安部氏の理知と相俟つて充分に會衆を首肯せしめ。臨時飛入五分演説を許したるに忽ち痛快なる慷慨淋漓たる青年の演説あり、殊に高岡今平氏が「一大行列をなさん」事を提議するや萬雷一時にはためくが如き喝采を拍し。曾田作氏の演説に對しては、最初多少の嘲弄の聲を聞いたが漸次氏の熱誠に感動し來り遂に滿場破るる計りの喝采をなし。最後に法學博士大場茂馬氏登壇、本問題は法律の力に俟つ事大なりと説き、吾人は進んで法律を改正して本運動を進むるは、最も捷徑にして肝要なるが故に、余は法律學者として各國の法例を擧げて諸君の參考に資せんとて、歐米諸國の風紀問題に對する法律を擧げて降壇。入場料四十二圓五十錢自由廢業案內號の賣上七圓十錢を得、五時空前の盛會を芽出度散會した。

自由廢業案內號の盛況

十一月號を休刊して發行した「自由廢業案內」が怎麽評判であるかといふ事は會員諸君の知らんと欲する處であらうと思ふ。

自由廢業案內號は實に天下の耳目を聳動せしめた。殊に遊廓業者を戰慄せしめた事は一通りではない、爾來本部は樣々な情報を耳にして居るのであるが、頃日吉原遊廓に於ても、娼妓後援會といふ樣なものを組織して、優待慰問の方法を講じ自廢の防禦に努める手筈になつてゐる。其他北海道、弘前、四國、中國、長崎、熊本と隨分遠隔の地から、殊には娼妓自身に送本を求め來る者も少くない、左に揭ぐるのは其一例であるが、こは密封して送つて呉れと申込み來りたるに對し、安心の出來る送先はないか。直接送つて若し開封せられたら困るだらうといふ手紙を出したのに對する返事である。

前文御免被下度候。廿六日附 御 貴書正に拜讀仕候、此度は色々御心配に預り千萬ありがたく御禮申上候、御貴會にては斯く御心附け被下とはしらず、餘り長引く故投函を賴みし使をうたがひ又貴會をうたがひなどして心にもなき罪をかかし天主樣に對し奉り 誠に申わけ無之候、此に讙天主樣並に貴會他の兄弟姉妹に深く謝罪します、實は貴會の御教導により早く苦界をのがれ、一日も早く主の愛に救はれ樂しき家庭を造り一時も早く人道をあやまらざる世を送り度き心に御座候、其れにしてかなしき事には女の身、如何ともなす事出來ず其れのみ案じ居るやさき、新聞にて承り此れ天主の御引合せと飛び立 喜び、其れより不取敢御貴會に御迷惑相掛け候次第何卒我々不幸の者を天の慈を以て無事相方同意にて解決致し度遂に御面倒に相成候次第、何卒一片の御同情を給はらん事を 祈 して御願上候、尙ほ受取揚所は表書の處にても宜しく候へ共必ず密封で御送附被下度候。尙 密 封 送 料 並 に今回の御返信料として八錢封入致し候間御受信の上は一日も早く御送附被下度願上候先は御返事旁々御願上迄早々不一

天國國〇〇より

尙大阪から三百部、京都から二百部、大連から百部といふ纒つた注文があり、五千部の第一版は忽ち品切れの姿となつたから、目下藝妓酌婦の自廢につき十頁餘を書き加へ、紙質及び表紙を立派にして單行本として再版發行の準備中である從つて一般には十五錢乃至二十錢で賣捌く事となるであらうと思ふが、會員諸君には十錢(外に郵稅二錢)づゝでお分ちするから、進んで本書を知人に吹聽せられ續々御注文下さらん事を切望する。

今、全國の新聞紙は如何に本書を迎へたか、これを悉く揭ぐには數頁を費しても足りないから、其中から少しばかりを選び且つ要點だけを揭げて、諸君の一覽に供し、併せて御奮鬪を祈る。

△**救濟研究** 廢娼問題の研究雜誌、廓清は十月及十一月號を休 刊して、娼妓自由廢業案內號なる四六判百餘頁の一書を刊行せり、島田三郞、安部磯雄、山室軍平其他數氏の自由廢業觀を網羅して盛に當局の筆誅を逞しふし、尙娼妓の爲めに如何にして自由廢業を爲すべきかを平易に解き、殊に切取り線までを附して、女郞衆に與ふる書を添へたり、吾人又同會の健實なる發展を期待するもの、希くは更に一段の具體的活動に出でん事を切望して止まざるなり。

△**福井新聞** (前略)其論ずる處犀利 明快、其說く處 通俗 平易、軒燈隂暗き廓に沈 淪せる哀れなる女を救はんとする風敎家は細讀すべし。

△**中國民報** 先づ自由 廢業 奬勵 の所以を各方面より論 述 し、その方法を敎えたるものなり、貸座敷業者に取りては一大 勁敵の出現なり。

△**日本新聞** (前略)何故に自由廢業を奬 勵 するかの理由を明 瞭 簡 潔 に叙し、且つ 憐 む可き現代娼妓か日常生活、及び彼等を餌食としつゝある當 業

者の人の子を呑噬する實狀を描き、且つ可嚀に自由廢業法をも解きたり。

△巖手每日新聞　各名士の政事、社會、教育、道德、法律、衞生の各方面及び自由廢業に就て關係者に對する希望を始め、自由廢業の過去現在及將來並に娼妓の實生活と、自由廢業の案內を極めて懇切に說明してある。

△大阪新報　(前略)何故之を獎勵する乎、娼妓の實生活と、自由廢業法を知らんとする者は讀む可し、娼妓全廢か否かの問題は未だ解決せられず、本會が主張する自由廢業も顧みる要無しとせん乎。

△石川新聞　(前略)題號能く其內容を說明し居れり、兎に角も自由廢業の指南者とも云ふ可きものにして、之を講說すること詳細を盡し、多數の寫眞版挿入もあり、讀過一種の興味を覺ゆ。

△羽後新報　(前略)內容は言ふ丈け野暮必要の人は買つて見る可し。

△いばらき　各名士の政治、社會、宗教、教育、道德、法律、衞生の各方面及自由廢業に就て關係者に對する希望を始め、自由廢業の過去現在及將來、並に娼妓の實生活と、自由廢業の案內を極めて懇切に說明してゐる。

△前橋商業新聞　(前略)收むる所廓清會は何故に自由廢業を獎勵する乎(中略)等犀利なる眼識、穩健なる所說、堂々たる主張を述しあり斯業者は一讀を要す。

△廣島中國新聞　(前略)先づ廓清會は何故に自由廢業を獎勵する乎の一問題を提出し(中略)娼妓の實生活と自由廢業案內等を載せて一册とせり、正に經世家の一讀す可きものなり。

△伊豫日々新聞　(前略)何故に自由廢業を獎勵する乎、自由廢業に就て各方面に望む、娼妓の實生活と自由廢業等の有益な記事を以て充つ。

△九州新聞　廢娼を目的とする廓清會の發行に係る、各方面の名士に依りて書かれたる廢娼論の外、自由廢業の妙法として一、先づ逃げよ、二、車夫に氣を付けよ三、警察は所轄以外は駄目四、警察は味方ではない五、警察ではいやの一點張り、以下詳細親切なる記述あり。

△濱松新聞　娼妓自由廢業案內とて、島田三郎氏の政治上より觀たる自由廢業を始めとし、名士の卓說紙上に躍如たり。

△イバラキ日報　(前略)所謂廓清の本趣に基く娼妓救濟の趣意に依り、自由廢業の方法を說きたるものにて之等職業婦にして、其苦境より脫せんとするものには好個の參考書たり。

△弘前新聞　廢娼論の急先鋒たる廓清會の(中略)自由廢業を可とする者も、非とする者も、共に讀んで見るが好い。

△中外日報　(前略)序に代ふるに太政官達及び司法省布達、娼妓取締規則等の一節を掲げ、卷頭に澤山の女郞が格子から顏を出して客を呼んでゐる寫眞を掲げ、其上に「嗚呼之何の圖ぞ」として「人身賣買—何と云ふ恐ろしい名であらう」(中略)等廢娼論の當否は兎も角、自由廢業に就ての案內書としては至れり盡せりである、(云々とて、五十行に渉て紹介してゐるのは、特に吾人の感謝に堪えぬ)

△上州新報　(前略)有る方面より詳細綿密に然かも大膽に論じ、且つ其廢業に就て遺憾なく誘導案內したるものなり。

△熊野新報　(前略)極力娼妓の自由廢業を獎勵する方針らしい、貸座敷營業者の殘忍酷薄を制するには功があるだらう、又國家社會の爲め必要として迎へねばならぬ。(とて四十行に渉て論ぜり)

△福岡日日新報　公娼廢止を主張せる廓清會の(中略)政事、宗教家、學者として各方面にある七氏の議論と、自由廢業に就て各方面に警告する者と過去現在の情況を記せり。

△ビックリ新聞　娼妓の自由廢業に對し極力奮鬪しつゝある(中略)尤も以上七氏は廓清會の肩書を有つた名士で、孰れも短篇なクリスチヤン式の高論卓說である。(中略)など各方面に亘つて大飛躍の記事を滿載してある。(下略)(とて三段に亘り大々的に本誌の內容を紹介してゐる)

△北羽新報　多年公娼廢止を唱道し來りし廓清會は、今回雜誌廓清別刊として標題の册子を刊行頒布せり。何故自由廢業を獎勵する乎。娼妓の實生活及び廢業手續を最も通俗に懇切に指示したり。

△大分新聞　不幸なる娼妓解放の爲め、十數年血を以て奮鬪し來れる廓清會の機關雜誌にて、島田三郎、安部磯雄、山室軍平諸氏の政治、社會、宗教、道德、法律、各方面より奴隷娼妓の解放を要求したる外、娼妓に與へて自由廢業を勸め手引たらんとせり

△吳日日新聞　本册子(中略)自由廢業を爲す手續並に之が實例一々詳細に記述したるものなり。

△北陸新聞　公娼廢止を獅子吼せる廓清會の機關雜誌にして、本號は自由廢業案內と銘打てり(下略)

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

熱血紅涙

□**尾花新造君**(長野)　廓清は毎號痛快なる記事のみにて滿載されあるは、實に社會の爲祝せざるを得ぬ、殊に十、十一月號の合本たる娼妓自由廢業案内號の四十五、六頁の「女郎衆に與ふる書」は實によいと思ひますが、此點線より切り放ち女郎衆に與へられん事を望むとあれど、此一枚ではどうすることも出來ぬから、貴會に於てトラクトの如く印刷し、會員に實費にて配布しては如何です。小生も及ばず乍ら運動しますそれには差當り五十枚ばかり入用ですからお送り願ひます、當鹽尻には娼妓が四十人、藝妓が二十人居るといふ事です、(御參考迄)。

□**大平善祐君**(東京)　小生は今夏以來貴會の趣旨に贊成して入會致せし者に候が、先日初めて吉原遊廓を一巡し益々彼等監禁者を解放せざる可らざるてふ念慮を固め申候後、リンコルンの傳を讀み奴隷解放の條に至り愈々しかく感じ候、就ては不肖乍ら貴會御事業の一助として「廓清」編輯の御手傳でも致し度と切に希望致し候、學校の餘暇に候へば土曜日なら午後二時間半位、日曜日なら午前三時間位に候も如何に候や何卒小生の望叶へ下され度候、失禮乍ら少しの俸給も頂く意志は無之候、右御返事煩し度候。

□**西田新藏君**(北海道)　先般トラクト御送附御願申上候處、早速御送被下展覽會場に於て能く人を撰み全部配付致候、我牧師は恩寵あつくなる小冊子を三千日本基督教師傳道師トラクト千九百、其他のものと七千七百部を配付致し申候、甚だ輕少に候も一圓丈け送付申上候間費用の一部に御加へ被下候はゞ本懷に候

□**某會員**(福岡)　益々御奮闘被下候段有難く奉存候、目下日獨の間戰爭中に付き、風俗上に就き一言申上候、過ぐる日露戰爭の慘禍は多數の「若き寡婦」を作り鄕黨の風儀の亂れたるは全國其例に乏しからざりき然して我が十八師團管下は今此現象を呈し居候。

□**緒方正臣君**(臺灣)　臺灣官民の淫風は殆んど言語の外に候、賄賂公行し、任免昇給一に之によつて決し、妻妾を附して料亭の淫酒に沈溺し、藝酌婦の跋扈其極に達し、却つて人は之を歡迎し兇暴なる抱主の爲めに密に悲泣しつゝある者も廢業の道なく、警察は却つて彼等を叱咤して逐拂ふを常とし、官吏の暴横墮落筆紙の盡す能はざるものあり、一時も早く當臺灣へも救助の爲め廓清の爲め御出張を切望仕候

□**横田秋生君**(奈良)　大正三年十月六日奈良新聞第五千七百二十五號に左の記事あり、丹波市の遊廓問題(モノニナルカナラヌカ)と題して丹波市町は三島河原城の兩村を合併して以來益々發展し現に戸數一千數百戸を有するに至りたるが、三島には有名なる天理敎本部もあり年々多數敎徒の來往絶えず料亭茶店の類も殖え如何はしき賣色婦の出沒止まぬに、衛生上の顧慮を要すること多きより、今回有志發起し遊廓を設置し之等の弊を矯めんとし同地出身の中山代議士を介し其筋に出願認可を受く可く運動中なりと云ふ、此記事は天理敎徒の道德的價値を明確に表白するものなり。

□**伊藤謙太郎君**(小樽區)　パールに膝を屈せざる者七千人と、昔エリヤを慰めん言、眞心止み難き情を與へ居る爲めか、北海の一隅に居る小生も七千人の一人かと思ひ居り候へ共、餘り力無きに獨り歎き居り候世は青島を屠りたる爲めに祝宴と云ふ名の下に我等の目的を破壞する樣に思はる、嗚呼我が國民は戰に勝ちて風教に破れ、病毒の爲めに國家を亡ぼすかと、或る宴會に出て救世軍一流の紙手勝演說を試み候、多少反響ある樣に思はれ居候故直に救世軍獨特のこりくしよんを致し、二十日會圖書館建設を宣言致候、勿驚提供郭廓清と國の光と二種類の圖書館は前代未聞かと存ぜられ候、然れ共小生は信ず、此に神の力の加はる時は獨乙の巨砲六十珊てふ者よりも彼の魔軍に對して效ある事と存じ候、ヨブを指導せし神は小生をも同じ否な借金を作らせ、如何に血路を開く哉を顧慮せしめ候へ共廓清の精神は倒れて後に止む覺悟に御座候、小生の發議により當廿日會は、廓清會に入會する旨決議致候へば右樣御記入下され度願上候、小生は十字架上の盗人の如く血路の開き得たる節は宜しく願上候

□**小松培根君**(埼玉)　益々御勇健我儕の主張の貫徹と目的の遂行のために粉骨碎身努力せられつゝある事と存じ、主の御祝福と御加護の豐かならん事を祈り居候。常に御訪問致度希望致居候も、兎角多忙の身殊に三週間位前より地方へ天幕集會相開き居り、小生は都合ありて出勤せずたゞ留守居致し居候へども、色々間接の用事に忙殺され居り、當分御訪問も致兼、誠に殘念至極に御座候。冀くば主の御援助により大々的發展あらん事を、陰ながら祈居候へば、國の爲め人道の爲めに盡瘁の程希望に堪へず候、早々頓首

□**小又常次郎君**(茨城)　余並に榮譽ある貴會員の末席に座すること得候てより、此に四ケ月の撫育を賜り候。顧れば以前の行動と今日の行動と、世間によるも雲泥の差有之候、斯如く余を善道に導き下され候貴會を一意敬慕致し居候が、此道德を現代の青年男女に擴張宣傳せんものと日夜辛苦致し居候も、如何せん物質主義の現代に於ては容易に其意を得ず、痛憤慷慨致し居候、就ては今回會員擴張の手段として、貴會支

部設立を題して募集致す所存に付、貴會に於ては別に差支無之候哉御伺申上候。

岩根和君（北海道）　廓清會、嗚呼何たる奇拔なる心地よき會なるぞ、聞くからに腕鳴り肉躍るの感あり斯く申す某は目下北州の小市に蟲々たる一少年に過ぎず、然れ共今や數月を過ぎずして上京せんとす、其時こそ大棒を振て都下五萬の蒼蠅をして心膽を寒からしめんとす、直に閣下の配下となりて東西奔走天下に大獅子吼を試みんと欲す、舊來の陋習を破り新天地を開拓し快哉を叫ばんと欲すれば、一方之に反論の湧くは覺悟の前、獻身以て國家の前途を救ふ、蓋し痛快事なる哉、我等憂國慨世の熱血兒幾多の犧牲を拂ふは豫期する所、而れ共淫人惰夫の及の慷慨悲憤の勇士の胸に何すれぞ徹らんや。それ公娼なるもの亡國の器に非ずして何ぞ、強國たる我日本男子の身體を柔弱ならしめ風紀を淫靡ならしめ華美虛榮ならしめ、無益の費用を要し實業に勞働するを厭はしめ果は貧國なしむ、廓清は眞に國家救濟の良法にして而も一大急務なり、生が兄目下東都にあり而して銀座敎會に於る諸先生の論を聞き生に傳ふ之れ誠に鳳聲なり、一度斷じて實行せざるは男子の意氣本領に背く事最も大なりと云ふも過言に非ずと信ず、それ實行せよ、決行せよと一介の少年微衷を吐露して壯圖に贊し天涯遙かに之が應援す。

中里正次郎君（東京）　最近に於ける廓清會の奮闘目覺しく、生等會員の等しく痛快とし且つ感謝する處に御座候。何卒少生の郷里埼玉縣の方にも活動の手を延ばし下され度、社會と人道との爲に粉骨碎身。犬馬の勞を辭せざる覺悟に御座候。

高岡今平君（東京）　自廢案内の目次を見るに、「警察は味方でない」の文字あり、人民保護の警察が當てにならぬとは何事ぞ我々は此際社會廓清の一大示威運動として、議會開會中絶好の機會であるから、堂々日比谷に行列をやつて我々人道を主張する者の充分なる意志を表明したい、諸君の大々的贊成を熱望する

石川主計君（東京）　私は去る廿二日夜淺草敎會に於て貴會の公娼問題を謹聽致し、轉た感慨禁せず不法なる法令に痛憤仕候、殊に過般洲崎に於て暴漢と戰ひつゝ首尾克く成功せられたる伊藤大尉の演説には一層感動仕候。私は元より微力短才に候へ共、貴會の趣旨は大贊成に付、乍不及盡力仕度御敎導願上候。

U、O君（秋田）　娼妓となる者の悲慘なるは誠に同情の至り、血あり涙ある者の正面に見得ざる處也併し藝酌婦も亦金の爲めに自由を束縛せられ奴隸の境遇に在り、願くば彼等にも光明と自由とを與へ給へ。

身體有効無保害證
さけ きらいになる 藥
禁酒丸
●定價 半週分六十錢●貳週分壹圓九十錢 一週分壹圓●三週分二圓八十錢
●煙草のみでもきらいになり益々壯健になること保證早くためして御らんなさい
からだに少しもがいなくどんな酒
禁煙液
たばこ きらいになる 藥
●定價五十錢●壹圓●壹圓五十錢●
●郵劵貳錢送附あれ兩藥の說明書送る●
本舖 大阪靱南通二丁目 森田商店
●御送金は振替口座大阪貳二壹二六番へ

曾田作君（東京）　諸君私は潔白な生涯を送つて來たとは云はない、山室大佐の云はれた樣に多くの婦人を觀殺しにして來た一人である、併しそれは知らないからであつた。私の先輩は娼面をゴマ化す事を敎へた。私の先輩は藝妓を買ふ事を敎へた。私の先輩は酒を呑む事を敎へた。私はそれ等を惡い事と思はなかつた。オフリユードフ侯爵は自分の罪の爲めにカチウシヤが墮落して殺人の嫌疑さへ受くるに至つたのを見て良心の苛責に堪へなかつた。我々は自分の罪を現實に見ないから勝手な眞似をする。之が事實であるといふ事程權威あるものはない、公娼制度の爲めに泣く姉妹と之が爲めに墮落する兄弟を救ふのは私共の役目である、山室先生や益富先生にお任せしてゐる時ではない我等自ら血を流しても戰はなければならぬ。地球の上の雜巾掛之が私の任務である（別項大會演說）

河田謙吉君（北海道）　各位愈々御清榮目的遂行の爲め御盡瘁被下候段奉感謝候。却說小生も廓清會の一會員として、人道の爲め社會の爲め速に不潔醜行の跡を斷ち度之が爲め日夜心痛致し居候へ共、其效果毫も顯はれず殘念に存じ居り候。北海道は新開地にて人口百六十萬餘人に對し娼妓數二千二百七十四人に有之、且つ如何なる山間に至るも戶數の十戶も軒を並べる箇所には、必ず「ソバヤ」なるもの有之、酌婦（方語後家）の淫賣婦巢窟にて警察署も關せず爲の有樣に御座候。壯丁檢査の節小樽區百分中十七、函館區は百分の十一、札幌區は八の割に花柳病患者有之由に候。而して札幌區は日本一の基督敎旺盛なる市街なるに不拘、牧師先生敎役者等より毫も廓清の聲を聞かず、殘念に又不思議に有之候。別紙は編輯御參考までに呈し候。（記者曰、別紙は次號に掲載可致雖有存候）

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

彙報

□麻布青年會の活動

麻布青年會といふのは、つい此頃區々の壁を揭げた最も勇健で有望な、社會の廓清を標榜する團體である。云はゞ我廓清會の別働隊とも見る可きものであつて、現に本誌を以て此會の機關雜誌として會員は悉く之を購讀する定めになつてゐる位である。吾人は衷心から本會の發展を熱望するのであるが、今左に同會の趣意、會則、此頃の活動等を揭げん。

△麻布青年會趣旨

恭しく惟るに　大正天皇陛下踐跡し給ひて一年有餘茲に初めて聖壽を奉祝する天長の佳節を迎ふ吾等神と俱に慶賀に堪へず即ち一會を起し以つて此の佳辰を記念し併せて先帝陛下の遺德を奉じ　今上陛下に忠節を致さんとす

謹んで顧るに　明治天皇の御治世四十有五年其の間人民を愛し給ふ事赤子の如く內に在りては國政を整理せられ外に對つては國威を發揚せらる治世の始年五ヶ條の御誓文ありて國家の基礎を定めさせ給ひ中年敎育勅語ありて敎育の普及を促され以つて人道を明かにせられ後年に及びて戊申詔書を發せられ國民の方針を定めさせ給ふ吾等是等の勅詔を拜讀し感涙に堪へず　先帝陛下の聖旨を拜受實踐し之れを後世に傳へて永く國民の標準たらしむる之れ　先帝陛下の鴻恩に酬ひ奉るの道にして又以て　今上陛下に忠なる所以にあらずや然るに我國の現狀を顧るに轉た痛心に堪ざるあり殊に麻布に漲れる暗雲!!!何所んぞ慨嘆せざるを得んや是れを打破する吾等靑年を措て果何れの處にか求めん麻布靑年の責や又大なり茲に熱血の士起つて一會を組織せんと欲し江原素六、安藤太郎兩氏に計るに兩氏雙手を擧げて贊成せられ初めて本會の設立を完全するを得たり。茲に本會の主旨を宣明し以つて愛國の志に計る幸に賢明なる諸兄姉奮って御贊成あらんことを（大正二年十月三十一日麻布鳥居坂一番地麻布青年會本部）

△麻布青年會々則

第一條　本會は麻布青年會と稱す
第二條　本會は本部を麻布區東鳥居坂町一番地に置く
第三條　本會の目的は會員各員の心身の發達を計り德性を涵養し以て社會を廓清するにあり
第四條　本會員を分ちて正會員及贊助會員となす
第五條　本會は每月拾日に例會を開催し、開會時間午後七時殊に天節長は本會の創立記念日として祝賀會を開き、總會を兼ね、尙時々演說會を開くべし
第六條　本會に顧問及び左の役員を置く
會長一名、副會長一名、理事二名、會計二名、書記二名
役員は互選を以つて之れを定め、其の任期を一年とし、總會に於て選擧を行ふ、但し再選を妨げず
第七條　本會の經費は會費及寄附金を以て支辨す
會費は一ヶ月金拾錢とす
第八條　本會に入會するには會員の紹介を要す
第九條　本會を脫會せんと欲する者は理由を具し會長に申出づることを要す
第十條　本會々則は總會出席者の過半數の決議により改正することを得

△麻布青年會員名簿

江原素六、安藤太郎、津田次郎、古澤滋三郎、酒井助作、曾根正藏、中島照二郎、中野豐吉、手塚藤次郎、村上榮二郎、佐藤與一、中隈菊郞、西野靜一、星野芳三、飯利鐵次郎、林一介、高橋義次、辻村勝郞、井上徹、柴田辰藏、佐伯有貞、栃木龜吉、神谷宗雄、榎並秀雄、井口増雄、五月女忠藏、川上金次郎、河野文雄、登之內勇吉、濱口末喜、中島留五郎、西脇重藏、鈴木佐太郎、村上米吉、島本佐一、塚野亮、白石勝次郎、村井伊三郎、高野倉定造、瀧原惟郭、高木兼寛、向軍治、柳井金城、甲田國雄、中村國太郎、五十川秀一、星光、河野龜二、竹須喜久止、半澤一成、淺野文雄、村松一、小林安次郎、藤田和文、飯村喜一、松本正一、三野啓逸、三野繁治、大內青巒、平林政博、倉持兼吉、山ノ內勝次、香正甫、須藤清太郎、原山鋼太郎、山崎利右衛門、増田發雄、高梨和夫、山田信一、木村未太郎、林善太郎、（女子部）天野くら、片山清見、甲斐千代、水野みつ

△天長節の總會

十月三十一日、午後七時、永坂町幼稚園に於て天長節祝賀を兼ね、總會を開催し。懇談後、會則の變更及役員の改選をなせり、即ち會則第三條中の「麻布區內」を「社會」とし、又從來第四條以下を順次一條宛繰下げ新に第四條として次の條項を追加せり「本會員を分ちて正會員及贊助會員となす」役員改選の結果如左

會長向軍治氏、副會長古澤滋三郎氏、理事酒井助作氏、同曾根正藏氏、會計栃木龜吉氏、同山ノ內勝次郞氏、書記手塚藤次郞氏、同三野繁治氏

△大演說會の開催

十一月十四日午後六時半、幼稚園に於て廓清大演說會を催す、三野繁治氏開會の辭を述べ、麻布青年會成立の趣旨より、國運の衰亡は常に戰勝の第一步に始まるとて列國興亡の跡を尋ね、今は提灯行列に浮かれ居る時に非ずと論じ、救世軍婦人救濟係主任伊藤富士雄氏は「藝妓論」と題し、人道上より救濟の急務を說き、廓清會主事伊藤秀吉氏は「國民道德の批判」と題し、藝娼妓の跋扈と國民の道德思想の低級なるを慨し、廓清會理事益富政助氏は「廓清論」と題し、戊申詔書を引きて麻布青年會の趣旨を布衍し、同會々長慶大敎授向軍治氏は劈頭余は會長としては不向なり、此種の會は建設的の人を要す、余の如きは從來破壞的の方面に盡して來た、と例の痛烈なる口調で國民の覺醒を促し、今にして國民の自覺する事なくんば、日本は將來第二の日露戰爭によりて、若しくば經濟上の破產によりて滅亡す可しと論じ、敎育亡國論に氣焰縱橫、終に社會廓清の基礎は信仰の力によらざる可からずと、堅く結んで降壇、滿場立錐の餘地なき盛會であつた。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

□鹽釜町民會の蹶起

本會員鈴木榮之進君等は、鹽釜町政の紊亂を廓清せんが爲めに蹶起し、鹽釜町民會なるものを組織し、奮闘中であるからとて本部に聲援を求め、別項の如き書を寄せられた。事の眞相は吾人の知る處にあらずと雖社會のあらゆる病弊を廓清せんとする吾人は、會員各自が各方面に最善の努力を致されむ事を望まざるを得ぬ、今町民會の會則を左に紹介せん。

△鹽釜町民會會則

一 本會ハ鹽釜町民會ト稱ス
一 本會ハ本町自治ノ發展ヲ進メ情弊ヲ拂ヒ公德ヲ高メ町費ヲ重ンジ町利民福ヲ謀ルヲ以テ主眼トス
一 本會ニ會長副會長各一名幹事若干名ヲ置ク
　但總會ニ於テ選任シ幹事ハ會長之ヲ選定ス
一 本會ニ名譽顧問一名ヲ置ク
一 會長ハ常ニ會員ヲ代表シ會則及決議ノ旨ニ基ヅキ之レカ執行ノ衝ニ當ル
　但會長事故アル時ハ副會長代理ス
一 幹事ハ會長ノ命ニ依リ會務ヲ擔當シ記錄ヲ整理ス
一 本會役員ノ任期ハ滿二ケ年トシ再選ヲ妨ケス
一 本會員タル者ハ曾テ破廉恥ノ行爲アルナク且町稅ヲ負擔スル者ニ限ル
一 本會員タル者荷モ町本位ノ誠意ヲ缺キ個人情弊ニ執着スル行爲アルナク又本會ノ體面ニ關スル言動ヲ許サス
一 會議ヲ分テ左ノ三種トス
　一通常會　但總會　二臨時會　三役員會
一 通常會ハ每歲春秋二回開會ス
一 臨時會ハ會長ノ意見又ハ會員二十名以上ノ要求アル時モ之ヲ開ク
一 役員會ハ每月十五日ヲ以テ例會トス若シ會長ニ於テ必要ト認ムル時又ハ幹事五名以上ノ請求アリタル時モ開會ス
　但シ會場ハ臨時ニ之レヲ定メ當分事務所ハ會長宅ニ置ク
一 本會員ハ必ス會議ニ出席スルモノトス若シ止ムヲ得サル事故ニヨリ出席不能ノ場合ト雖モ決議事項ニ對シ同意ナリト認定シ後日異議ヲ挾ムコトヲ得ス
一 本會ノ決議ハ出席人員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナル時ハ會長之レヲ決ス
一 本會ノ維持費ハ有志者ノ寄贈金ヲ以テ之ニ充ツ
　但維持費ハ郵便貯金又確實ナル方法ヲ以テ保管シ會長ノ決判ヲ以テ必要隨時ニ支出スルコト
一 收支決算ニ關スル事務ハ幹事二名ヲ以テ擔當ス
　但該幹事ハ會長撰任ス
一 收支決算ハ會長ヨリ翌年總會ニ於テ報告ス
一 本會則ヲ變更セントスル時ハ總會出席人員ノ過半數ヲ以テ之レヲ決定ス
一 會員ニシテ萬一破廉恥罪ニ觸ル、コトアルカ又ハ本會則ニ反對ノ行爲アル不幸ニ會スル時ハ除名セラルベシ

□婦人矯風會の慈愛館

本會事業の一として賤業に陥り、又將に陥らんとする我が同胞姉妹を救濟して正業に就しめんが爲に內外婦人協力して、府下大久保村にクリテントン慈愛館の創立となつたのは、御承知の通り明治十九年で、日本に於ける婦人ホームとして元祖たる榮譽を有するのであるが、從來其維持法は專ら有志の御寄附を仰いでをつたのが、この頃は館內の姉妹が養鷄を致したり又西洋洗濯を習ひて、幾分の補助を致す樣な仕組となつて居つたのを、今回規模を擴めて第三號館日本風二階建十餘室を有する建物を新築されて「落穗拾ひ」と云ふ趣意の下に每月十錢一口づゝの同情者を求めて、此事業の發展せしむる運動を始められた。現在は少女廿四名妊婦三名を收容してゐる、大方の御同情を仰ぐ。

□理想的の結婚媒介所

基督敎名鑑を著はされた河合篤叙氏は生活上の壓迫と共に結婚難が加はり、人生の最も大切なる結婚が互に其配を得るに苦しんで、遂に輕忽なる結婚をなすに至り。家庭の波瀾となり、離婚の續出となり、不良兒の産出となり、廓淸會の問題に觸るゝ事多きを慨し。結婚難を調和する機關たる結婚媒介所が、殆んど詐欺的山師的のものゝみなるを歎き。媒介者の人格が信頼するに足るものでなくてはならぬといふので、多年商業學校の校長たり或は女學校の校長たりし氏は自ら身を挺して、出雲の神樣となり、最も趣味あり且つ合理的の方法にて理想的の結婚媒介をなして、家庭と風紀の爲めに盡さるゝ事となつた。希望者は日比谷公園前日本惠仁志會に申込まる可し。

□女中學校起る

赤坂區溜池三番地に、女中の品性を高め、智識技能を授くる目的を以て、女中の夜學校が出來た。これは婦人矯風會の事業の一つとしてなされたのであるが、創立以來日は淺いが頗る有望ださうで、飽迄寺小屋式に人格主義の敎育をするといふ事である。

□緒方千重子氏

（大阪支部贊助員）大阪に於て常に幾多慈善事業の爲め多大の同情と盡瘁とを致されつゝあつた同女史は、遂に宿痾の爲め永眠せられた。世の多くの弱者の爲にも特に哀悼の情に堪へぬ。謹しで弔意を表す。

□松永靜子氏

（本會評議員江原素六氏令孃）は病氣の爲め歐羅巴より歸朝の途次、印度洋上に於て永眠せらる、謹しんで弔意を表す。

□內ケ崎作太郎氏

（本會理事內ケ崎作三郎氏嚴父）は本月三日永眠せらる、謹しんで弔意を表す。

大正三年十二月十四日納本　一部定價金六錢
大正三年十二月十五日發行（每月一回十五日發行）

神田區今川小路一丁目三番地
編輯兼發行人　伊藤秀吉
神田區三河町一丁目十四番地
印刷人　小林照雄
神田區三河町一丁目十四番地
印刷所　丸利印刷所
神奈川縣川崎町砂子百三番地
發行所　廓淸發行所

are not enrolled, the system collapses; if minors are enrolled, society perpetrates an infamy." (Flexner, *Prostitution in Europe*, p. 154.)

5. ***Licensed brothels are becoming extinct.*** Always regarded by the authorities as the core of the system—largely because of the facilities they afforded for the sanitary supervision of their inmates—the *maisons tolérées* are everywhere declining in numbers and popularity. Men shun them, and girls will no longer endure brothel-slavery.

6. ***Clandestine prostitution defies Regulation.*** "Clandestine" is a technical term used by the *police des mœurs* to denote prostitution that is not under their control, and does not imply slyness or concealment. The word is practically synonymous with "unregistered."

In numbers, the "clandestines" vastly exceed the "registered." In Paris the total on the registers at any one time is some 6,000. According to M. Lépine—who until recently was Prefect of the Police—there are 60,000 porstitutes in Paris—*i.e.*, only ten per cent. are even nominally under control. There is a similar disparity between the "clandestines" and the registered in Berlin, Vienna, and other large cities. If the surgeons complain that the control is too lax, the *police des mœurs* reply that the regulations are already strained to the utmost and that nothing more can be done. The main stream of prostitution refuses to submit.

7. ***Regulation is illegal,*** or at best extra-legal, in most countries where it obtains. To the question why legal sanction has been withheld, the only answer possible is that given to Parent-Duchatelet, the great apostle of regulation, more than half a century ago by a prefect of police that "it was impossible to make such a law, because it would be regarded as immoral and arouse indignation."

8. ***Regulation is morally indefensible.*** "In its ultimate effect, it is a compact with vice, whatever the language employed. It may not intend to encourage vice, but by conceding to vice a privileged position it discourages all effort to prevent or uproot it." (Flexner, *op. cit.* p. 285.) This objection was felt before the hygienic desirability of regulation was challenged. It is more strongly felt to-day. The public conscience perceives that no community can, in its own higher permanent interests, afford to foster immorality by licensing it.

9. ***Unsupported by law and morality, the "morals-police" are paralysed.*** Parent-Duchatelet observed this, and also that their inefficiency is a direct consequence of their invidious and false position. Furthermore, they are generally believed to be corrupt. If such is the case, it must be remembered that they are hourly exposed to temptations which few men would successfully resist. A charge frequently made against them is that they arrest only the friendless and penniless.

These causes are not merely accidental, arising from negligent administration. They are inherent in the system. Regulation cannot control the vicious men who spread disease. Neither can it cope with "mediate infection." Apart from the gross injustice of incarcerating women because they are diseased, the financial difficulty of providing for their prolonged detention is practically insuperable. The licensed brothel is in hopeless decay, partly because public opinion now condemns the registration of minors on whom they so largely depended. Long experience has shown that a more complete registration of "clandestines" cannot be effected. In no city in which regulation is enforced is increased severity or stringency advocated. Everywhere the tendency is to treat prostitutes, and especially minors, with more justice and humanity than is possible under a system which remorselessly brands them, when registered, as outcasts and pariahs, and robs them of the protection of the ordinary laws. Regulationists themselves clamour for reform; but the responsible Governments of those countries that have not adopted the policy of Abolition fear to touch a structure which is visibly crumbling to ruin. Regulation is bankrupt and cannot be rehabilitated.

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

THE PURITY

Published monthly at the Head Office of the Purity Society,
No. 3, Sanchome, Mitoshirocho, Kanda, Tokyo.

Vol. IV December, 1914 No. 12.

CONTENTS.

At the End of the third year of Taisho. M. Masutomi
A study of One Hundred Prostitutes. Col. G. Yamamuro.
British Women and Japanese Women. E. Uyehara. Sc. D.
Activities of German Ladies. Dr. H. Mitaya.
Obey to the Revelation from Heaven. Mrs. T. Honda.
The Two Models of Purity. J. Aburatani.
The Social Influence of the Flowery-day-Soceity. Mrs. H. Hatoyama.
Soon Hot and Soon Cool? K. Suitsu.
The Confession of Failure in Saving a Prostitute. T. M.
Purity Activity in the Province of Tochigi. Kwoyen.
An Awakening of the Shiogama. Citizens' Soceity. E. Suzuki.
A Great Movement of Our Organization in the Autumn. Editor,
"Free abolition Number" of "The Purity" Editor.
The Voices of the Members.
Notes and News.

THE FAILURE OF REGULATION.

In all European countries that have adopted Regulation, much dissatisfaction has been expressed with the results attained, and everywhere it is losing ground. Norway, Denmark, Holland, and Switzerland (excepting one canton), and many centres of population in France and Germany, have discarded it; Italy has gone far in the same direction; and Government commissions in France and Sweden have reported in favour of abolition. Not a few influential Regulationists have proved their disappointment by their persistent search for some new form of Regulation, and one of them—Professor Neisser, the discoverer of the "gonococcus"—has declared that the present system must be radically reconstructed or entirely demolished.

This dissatisfaction arises largely from the failure of regulation to arrest disease. Dr. Engel-Reimers, who was responsible for the control of prostitutes in the regulationist city of Hamburg, wrote in 1908 that it is absolutely clear that syphilis and gonorrhœa are no less common where regulation exists than in places where prostitutes enjoy unrestrained freedom. It is generally recognised that there is at least as much venereal disease in Paris, Berlin, and Vienna as in London.

If Regulation has, then, failed to protect the public health—and no one maintains that it has succeeded—what are the causes of its failure?

Regulation is a sanitary failure because—

1. ***It is one-sided.*** It coerces only women and girls, and allows men unfettered liberty to spread contagion.

2. ***It ignores "mediate infection."*** A prostitute who is herself immune may be a medium for conveying disease from one client to another.

3. ***The provision made for diseased prostitutes has been notoriously inadequate.*** Only a small fraction of the diseased have been detained; if every infected prostitute, and still more if every infected man, had been interned until cured or rendered innocuous, the drain on the public purse would have been stupendous.

4. ***Minor girls are an insuperable difficulty.*** Hygienically, youthful prostitutes are very dangerous. Numerically, they often constitute the majority. At one time, the *police des moeurs* did not scruple to register girls in their early teens as professional prostitutes! To-day public opinion condemns so callous a proceeding. Consequently the problem of the minor girl baffles the authorities. "If minors

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

COLUMBIA UNIVERSITY LIBRARIES

This book is due on the date indicated below, or at the expiration of a definite period after the date of borrowing, as provided by the library rules or by special arrangement with the Librarian in charge.

DATE BORROWED	DATE DUE	DATE BORROWED	DATE DUE

C28

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY

COLUMBIA UNIVERSITY LIBRARIES
0057466319

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

COLUMBIA LIBRARIES OFFSITE
CU05775620

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY